



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和元年9月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和元年6月	令和元年9月	前回調査比
茨城県	43.8	46.1	+2.3
県北地域	43.4	46.1	+2.7
県央地域	43.2	50.9	+7.7
鹿行地域	43.8	41.2	△2.6
県南地域	48.7	46.6	△2.1
県西地域	39.8	45.6	+5.8

《景気の先行き判断DI》

	令和元年6月	令和元年9月	前回調査比
茨城県	47.1	37.2	△9.9
県北地域	47.4	40.8	△6.6
県央地域	49.6	35.3	△14.3
鹿行地域	46.0	34.2	△11.8
県南地域	50.0	38.4	△11.6
県西地域	42.1	37.3	△4.8

令和元年10月

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	32

問い合わせ先
茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632
公式サイトのURL
<http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	287 人	95.7%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	58 人	96.7%
鹿行地域	60 人	57 人	95.0%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	57 人	95.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は6月, 9月, 12月及び3月の年4回である。令和元年9月調査の調査期間は、令和元年9月2日から令和元年9月30日である。

6 利用上の注意

(1) D I (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。

(2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、D I 値は、

$$(1 \text{ 点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{ 点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{ 点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{ 点} \times 11.0\%) + (0 \text{ 点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気の下
降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは46.1となった。令和元年6月調査（以下、「前回調査」という。）より2.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

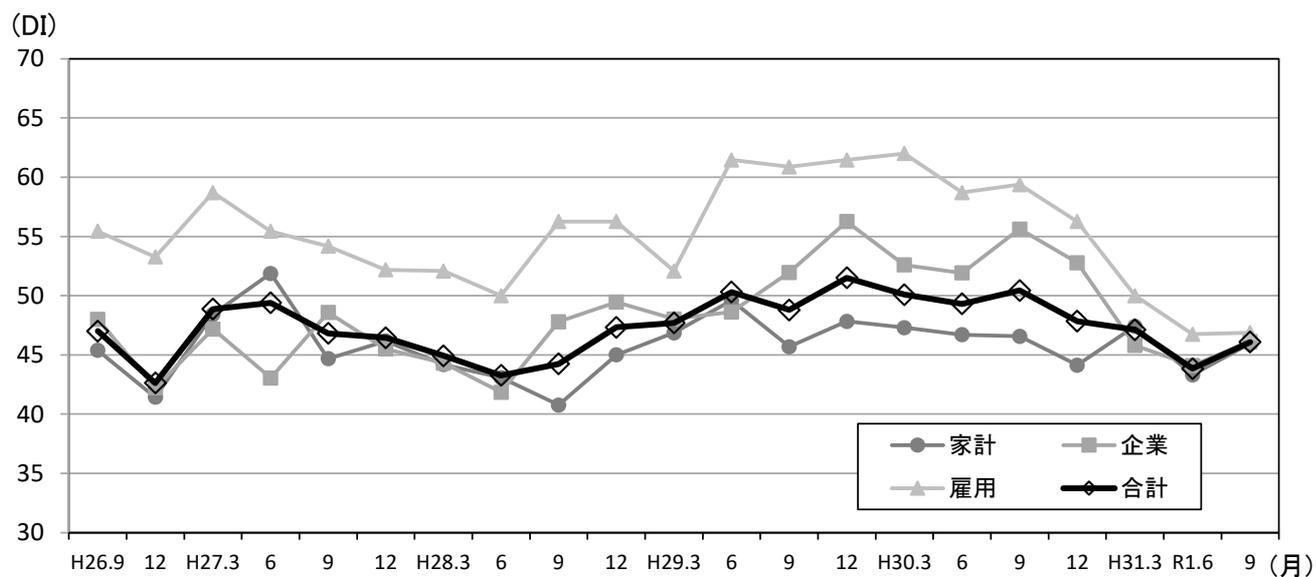
表1-1 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
分野	9月	12月	3月	6月	9月
合計	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1
家計動向関連	46.6	44.1	47.4	43.3	46.0
小売関連	44.8	42.0	44.3	41.5	44.3
飲食関連	42.4	42.4	47.8	44.8	40.9
サービス関連	47.7	46.1	50.0	44.7	49.0
住宅関連	62.5	47.2	46.9	40.6	43.8
企業動向関連	55.6	52.8	45.8	44.1	46.1
農林水産業	56.3	50.0	40.6	34.4	57.1
製造業	57.3	51.6	43.1	44.7	42.7
非製造業	53.0	55.1	50.7	45.6	48.6
雇用関連	59.4	56.3	50.0	46.7	46.9

表1-2 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	9月	12月	3月	6月	9月
良くなっている	3.5%	2.8%	1.4%	1.8%	1.0%
やや良くなっている	19.1%	17.0%	17.4%	10.9%	18.1%
変わらない	57.6%	54.7%	54.7%	54.9%	50.5%
やや悪くなっている	15.3%	20.1%	21.3%	25.7%	24.7%
悪くなっている	4.5%	5.5%	5.2%	6.7%	5.6%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは37.2となった。前回調査より9.9ポイント低下し、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

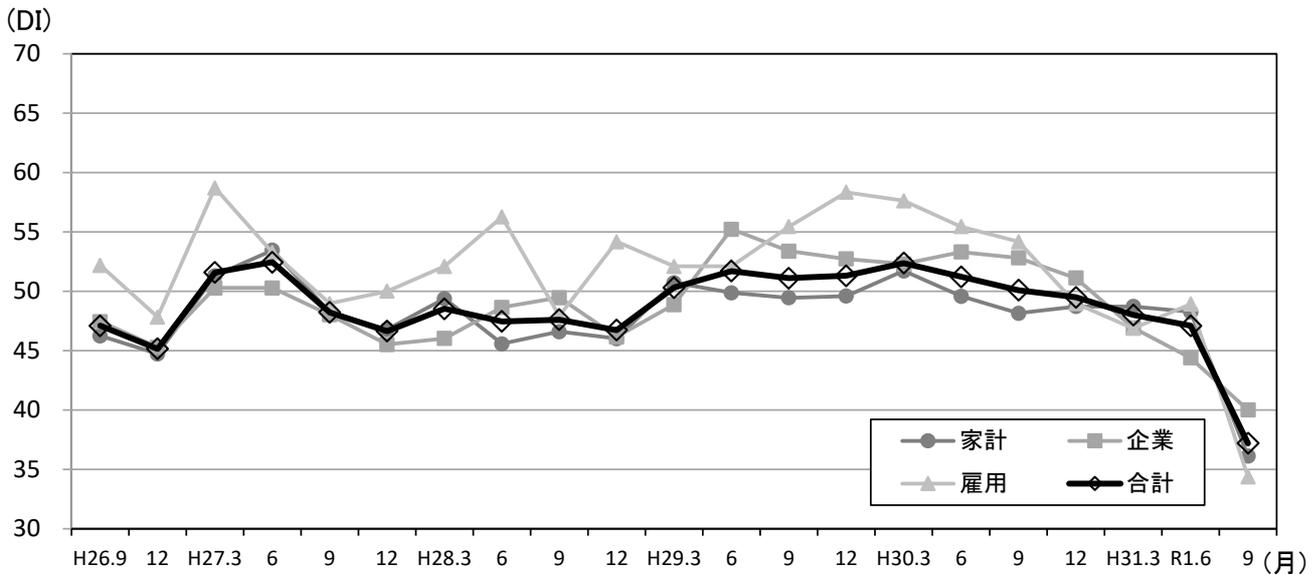
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
合計		50.1	49.5	48.0	47.1	37.2
家計動向関連		48.1	48.7	48.7	48.3	36.1
小売関連		46.6	46.6	48.9	46.9	29.5
飲食関連		40.2	46.7	42.4	46.9	35.2
サービス関連		50.0	49.0	51.6	49.0	42.5
住宅関連		65.6	66.7	37.5	56.3	31.3
企業動向関連		52.8	51.1	46.9	44.4	40.0
農林水産業		43.8	50.0	53.1	50.0	46.4
製造業		52.1	50.0	44.7	43.1	38.0
非製造業		56.1	52.9	48.5	44.9	41.4
雇用関連		54.2	49.0	46.9	48.9	34.4

表1-4 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	2.4%	3.1%	2.4%	2.1%	1.4%
やや良くなっている	18.1%	17.0%	18.1%	19.7%	9.8%
変わらない	60.1%	57.8%	52.3%	50.4%	38.3%
やや悪くなっている	16.3%	19.0%	23.3%	20.1%	37.3%
悪くなっている	3.1%	3.1%	3.8%	7.7%	13.2%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは46.1となった。前回調査より2.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1
家計動向関連	46.4	41.2	40.7	44.1	46.3
企業動向関連	55.3	60.5	39.5	40.8	43.4
雇用関連	56.3	56.3	50.0	50.0	56.3

表2-2 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	1.7%	5.3%	0.0%	5.3%	1.8%
やや良くなっている	22.4%	19.3%	10.3%	10.5%	15.8%
変わらない	53.4%	45.6%	53.4%	47.4%	50.9%
やや悪くなっている	19.0%	24.6%	25.9%	26.3%	28.1%
悪くなっている	3.4%	5.3%	10.3%	10.5%	3.5%

② 県央地域

景気の現状判断DIは50.9となった。前回調査より7.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9
家計動向関連	49.3	44.2	52.0	44.7	52.0
企業動向関連	59.4	51.7	51.7	35.9	48.4
雇用関連	60.0	60.0	60.0	55.0	50.0

表2-4 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	10.3%	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%
やや良くなっている	17.2%	16.9%	27.6%	13.6%	27.6%
変わらない	50.0%	47.5%	46.6%	47.5%	41.4%
やや悪くなっている	19.0%	30.5%	20.7%	37.3%	24.1%
悪くなっている	3.4%	1.7%	1.7%	1.7%	3.4%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは41.2となった。前回調査より2.6ポイント低下して、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
分野	9月	12月	3月	6月	9月
合計	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2
家計動向関連	44.7	48.5	49.2	43.9	39.4
企業動向関連	50.0	50.0	43.4	43.1	43.4
雇用関連	60.0	50.0	40.0	45.0	45.0

表2-6 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	9月	12月	3月	6月	9月
良くなっている	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%
やや良くなっている	14.0%	17.5%	15.8%	7.1%	14.0%
変わらない	66.7%	61.4%	57.9%	58.9%	47.4%
やや悪くなっている	15.8%	14.0%	22.8%	28.6%	28.1%
悪くなっている	3.5%	5.3%	3.5%	3.6%	10.5%

② 県南地域

景気の現状判断DIは46.6となった。前回調査より2.1ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
分野	9月	12月	3月	6月	9月
合計	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6
家計動向関連	49.3	46.4	52.9	47.8	47.8
企業動向関連	59.7	55.6	51.4	51.3	46.1
雇用関連	65.0	55.0	35.0	45.0	40.0

表2-8 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	9月	12月	3月	6月	9月
良くなっている	1.7%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	24.1%	15.5%	15.5%	15.5%	13.8%
変わらない	65.5%	70.7%	62.1%	65.5%	63.8%
やや悪くなっている	5.2%	12.1%	19.0%	17.2%	17.2%
悪くなっている	3.4%	1.7%	0.0%	1.7%	5.2%

③ 県西地域

景気の現状判断DIは45.6となった。前回調査より5.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を22期連続で下回った。

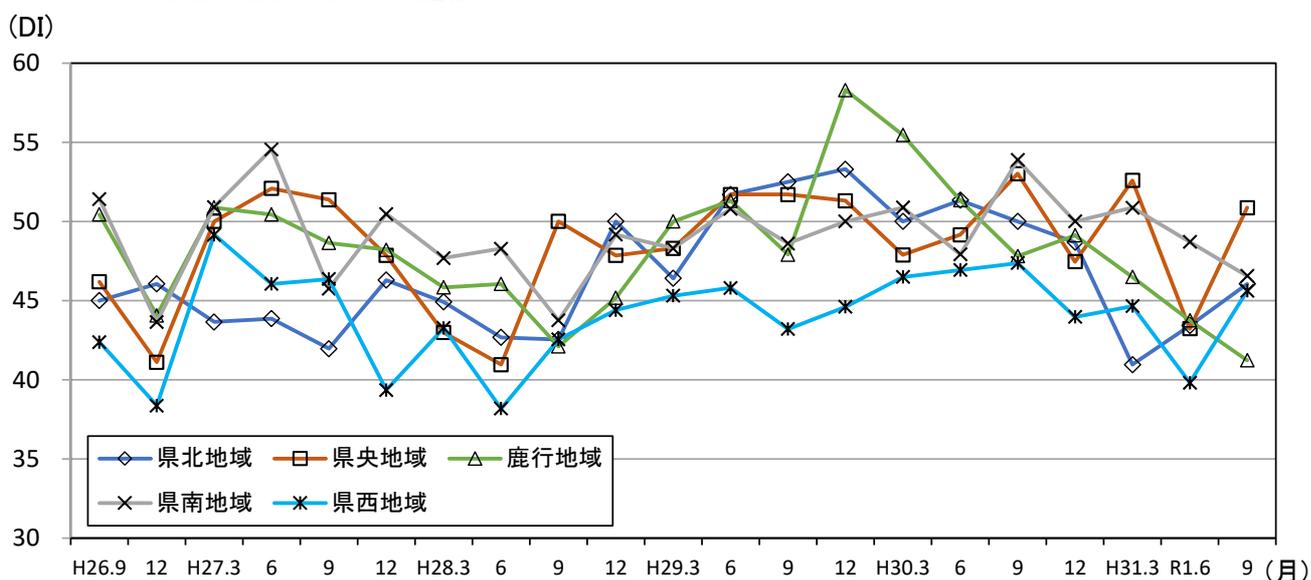
表2-9 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
分野	9月	12月	3月	6月	9月
合計	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6
家計動向関連	42.9	40.4	41.7	35.6	43.6
企業動向関連	54.4	46.1	44.4	48.5	50.0
雇用関連	55.0	60.0	65.0	37.5	45.0

表2-10 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	9月	12月	3月	6月	9月
良くなっている	3.5%	3.4%	0.0%	1.9%	0.0%
やや良くなっている	17.5%	15.5%	17.9%	7.4%	19.3%
変わらない	52.6%	48.3%	53.6%	55.6%	49.1%
やや悪くなっている	17.5%	19.0%	17.9%	18.5%	26.3%
悪くなっている	8.8%	13.8%	10.7%	16.7%	5.3%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6	R1.9月
県全体	47.0	42.6	48.9	49.4	46.8	46.5	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1
県北	45.0	46.1	43.6	43.9	42.0	46.3	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1
県中央	46.2	41.1	50.0	52.1	51.4	47.8	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9
鹿行	50.4	44.1	50.9	50.4	48.6	48.2	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2
県南	51.4	43.6	50.9	54.5	45.8	50.5	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6
県西	42.4	38.4	49.2	46.1	46.4	39.4	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6
全国	47.4	45.2	52.2	51.0	47.5	48.7	45.4	41.2	44.8	51.2	50.6	49.9	49.6	53.9	51.7	48.2	47.3	48.2	46.7	43.3	45.7(原数値)
	49.2	45.0	49.5	51.4	48.8	47.9	42.9	41.8	46.2	49.9	48.4	50.6	50.9	52.9	49.6	48.8	48.3	46.8	44.8	44.0	46.7(季節調整値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは40.8となった。前回調査より6.6ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8
家計動向関連	50.7	45.6	41.4	50.0	41.9
企業動向関連	51.3	57.9	46.1	40.8	40.8
雇用関連	50.0	50.0	50.0	56.3	31.3

表2-12 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	3.4%	5.3%	0.0%	3.5%	3.5%
やや良くなっている	17.2%	17.5%	13.8%	21.1%	8.8%
変わらない	60.3%	54.4%	53.4%	45.6%	45.6%
やや悪くなっている	17.2%	17.5%	25.9%	21.1%	31.6%
悪くなっている	1.7%	5.3%	6.9%	8.8%	10.5%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは35.3となった。前回調査より14.3ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3
家計動向関連	50.7	53.2	58.6	51.3	32.4
企業動向関連	60.9	46.7	46.7	42.2	40.6
雇用関連	55.0	45.0	45.0	60.0	40.0

表2-14 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	5.2%	5.1%	5.2%	3.4%	1.7%
やや良くなっている	24.1%	20.3%	32.8%	25.4%	13.8%
変わらない	53.4%	47.5%	37.9%	42.4%	25.9%
やや悪くなっている	15.5%	27.1%	22.4%	23.7%	41.4%
悪くなっている	1.7%	0.0%	1.7%	5.1%	17.2%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断D Iは34.2となった。前回調査より11.8ポイント低下して、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2
家計動向関連	49.2	47.0	50.0	47.7	31.8
企業動向関連	52.6	52.6	50.0	41.7	38.2
雇用関連	50.0	45.0	40.0	50.0	35.0

表2-16 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%
やや良くなっている	15.8%	15.8%	17.5%	12.5%	3.5%
変わらない	66.7%	63.2%	57.9%	57.1%	36.8%
やや悪くなっている	14.0%	14.0%	21.1%	25.0%	45.6%
悪くなっている	1.8%	5.3%	1.8%	3.6%	12.3%

② 県南地域

景気の先行き判断D Iは38.4となった。前回調査より11.6ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
分野					
合計	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4
家計動向関連	47.9	50.0	53.6	52.9	37.5
企業動向関連	55.6	41.7	45.8	46.1	40.8
雇用関連	65.0	55.0	40.0	45.0	35.0

表2-18 回答構成比

	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	5.2%	1.7%	0.0%
やや良くなっている	19.0%	17.2%	13.8%	22.4%	8.6%
変わらない	69.0%	60.3%	56.9%	56.9%	48.3%
やや悪くなっている	12.1%	19.0%	24.1%	12.1%	31.0%
悪くなっている	0.0%	3.4%	0.0%	6.9%	12.1%

③ 県西地域

景気の先行き判断DIは37.3となった。前回調査より4.8ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

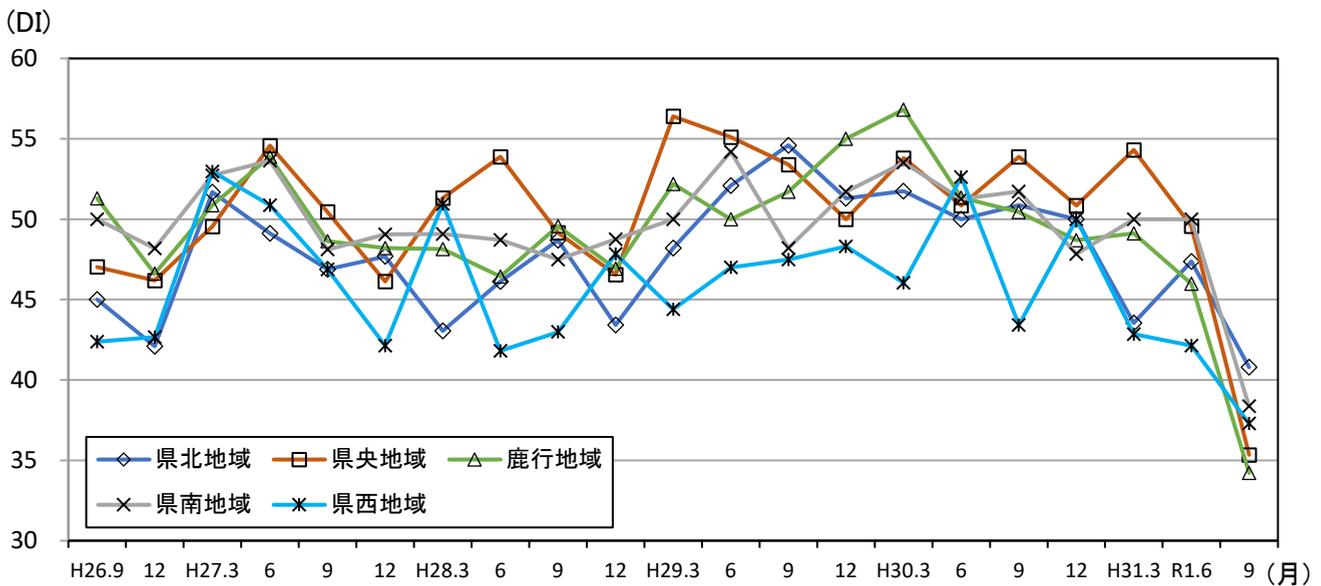
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		43.4	50.0	42.9	42.1	37.3
家計動向関連		42.1	47.1	38.6	38.6	37.1
企業動向関連		44.1	55.3	45.8	51.5	39.7
雇用関連		50.0	50.0	60.0	31.3	30.0

表2-20 回答構成比

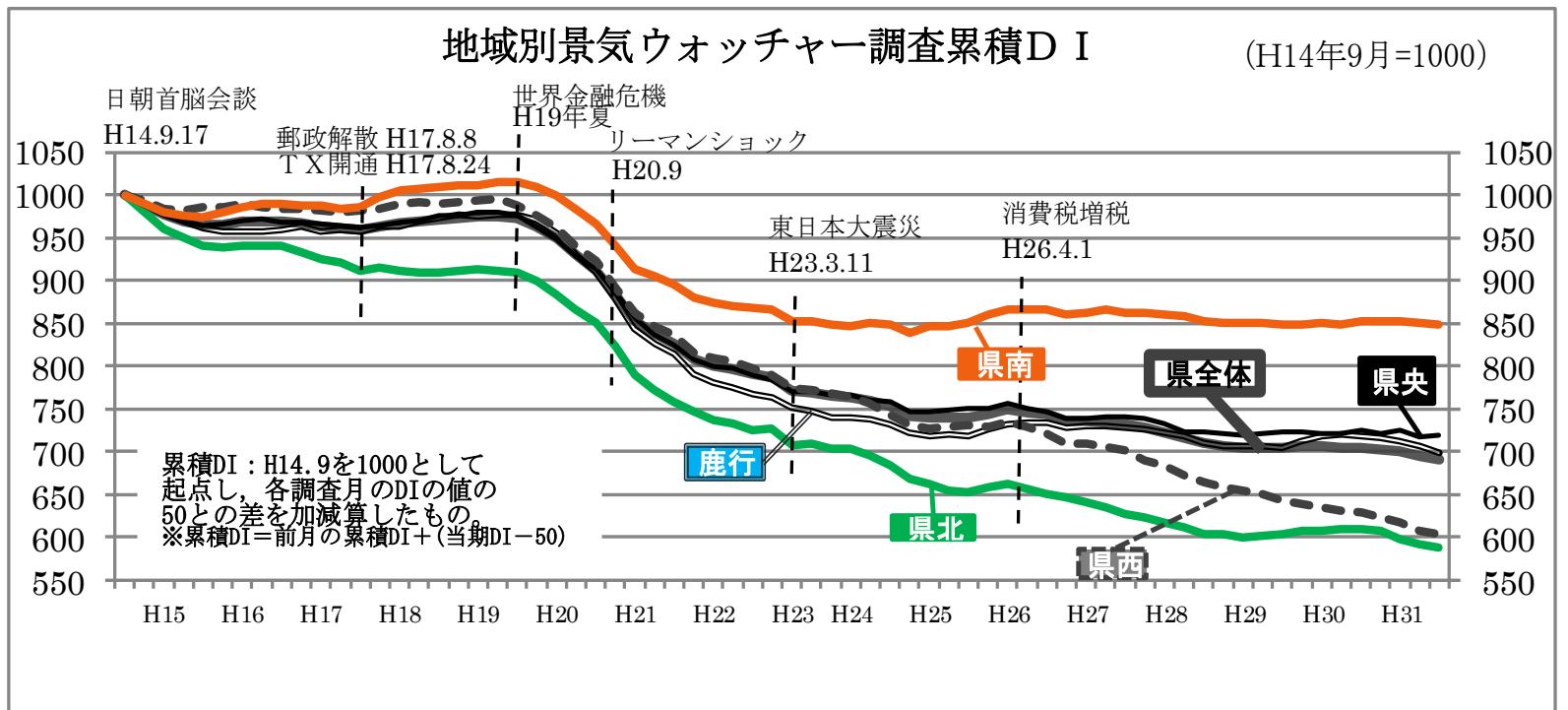
	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	9月	12月	3月	6月	9月
良くなっている	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	14.0%	13.8%	12.5%	16.7%	14.0%
変わらない	50.9%	63.8%	55.4%	50.0%	35.1%
やや悪くなっている	22.8%	17.2%	23.2%	18.5%	36.8%
悪くなっている	10.5%	1.7%	8.9%	14.8%	14.0%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6	R1.9月
県全体	47.1	45.1	51.6	52.4	48.2	46.6	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2
県北	45.0	42.1	51.7	49.1	46.9	47.7	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8
県中央	47.0	46.2	49.6	54.6	50.5	46.1	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3
鹿行	51.3	46.6	50.9	53.9	48.6	48.2	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2
県南	50.0	48.2	52.7	53.6	48.1	49.1	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4
県西	42.4	42.7	53.0	50.9	46.9	42.1	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3
全国	48.7	46.7	53.4	53.5	49.1	48.2	46.7	41.5	48.5	49.0	49.0	51.5	50.4	51.3	50.1	50.9	50.7	47.0	47.9	46.3	36.7(原数値)
	50.0	47.8	52.8	52.7	50.0	49.2	46.6	40.8	49.2	50.0	49.3	50.8	50.8	52.2	50.6	50.3	51.0	47.9	48.6	45.8	36.9(季節調整値)

(参考) 地域別累積DI



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業 (電気機械器具)	作業量が多く、人員不足で別の会社から派遣を受けている。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	ひたちなか市は観光のまち。今年の夏はイベントが多く、宿泊、飲食等の業者は忙しかったようである。
		スナック	外食する人が多いので、やや良くなっている。
		食堂	夏休みになり、若者が遠方からグループで来ていました。ライブの帰りに来たそうです。やはり何と云っても若い世代の客が多くないと、客単価は良くなりません。
		タクシー運転手	9、10月と国体が開催され、県外のお客様が多数訪れると思われる。人の移動が増加し、景気にも多少良い影響があると思われる。
		タクシー運転手	茨城国体の会期前開催競技会でいくぶん活況感が出ている。(ホテル、タクシーなど)
		レジャー施設	消費税増税前の駆け込みの影響で、家電量販店、家具店が混雑している。
		ボウリング場	例年よりも各施設の利用者がやや増加傾向にある。
雇用	学校就業関係者	若年者の求人が増えている。	
	求人開拓員	増税前の影響がマスクや折込チラシ等でも、増税前の消費を煽っているようで、なんとなく景気が良くなっている様子だ。	
変わらない	家計	スーパー	増税前の需要も見越して、各社セール等行っているが、食料品は8%のままであり、お客様も冷静である。かえって、増税対象の需要を考え、食料品は無理をしていない。お客様1人当たりの単価を見ても変わっていない。
		スーパー	売上高等、前年とほぼ変わっていない。
		スーパー	10月からの増税による駆け込みは見られない。ビール等に少し動きが見られるが、あまり変化はない。
		酒・各種商品小売業	先月、近くに大型ディスカウント酒販店がオープンし、近くのお客様が多少流れた感があったが、思ったほどではなかった。逆に得意先で新店をオープンすることになり、プラマイゼロという感じ。
		衣料品販売店	来店客数が変わらない。
		自動車販売店	消費税増税の駆け込みも特になく、自動車の場合、登録日の税率になるので増税前が間に合わず、消費者も情報を得ているため、あわてて購買に走らないようである。
		小売業 (水産物)	売上げが伸びない。
		小売業 (時計)	良くも悪くもなくとの判断です。
		旅行代理店	受注状況を昨年と比較すると、今月、3か月前と変化なく推移している。
		タクシー運転手	売上げ、営業、回数に大きな変動がない。
		ゴルフ場	茨城国体の宿泊等の準備で忙しい。女性の来場者が増えている。収入増。
		ゴルフ場	前年並みのペースで予約が流れている。
		ゴルフ場	特段変化が見られない。
写真店	売上げについて、伸び率がやや良くなっているが、景気が良くなっていくという因子が見当たらず、むしろ消費税アップを気にする声を良く聞きます。		
写真店	この時期は例年仕事も少ない。		

変わらない	企業	水産業関係者	前回との変化を感じられなかった。
		製造業（食料品）	国体、ワールドラグビー等イベントはあるものの、大きな浮揚感や消費増、売上増の変化はなし。
		製造業（電気機械器具）	前年と比べ、特に変わった傾向は見られません。
		製造業（電気機械器具）	3か月前と前と同じような生産高、売上高を低調に推移している。
		製造業（一般機械器具）	3か月前に比べ、生産数が少し増加しているが、大きな変動は見られない。
		製造業（輸送用機械器具）	8月の国内新車販売台数は前年同月比約7%増の約40万台に対して、5年前の消費増税前では約30%増であった。駆け込み需要も見られたが、今回は冷静な市場動向の様相である。しかし、軽自動車の8月販売は前月に各社の新車攻勢もあり過去2番目の売り上げを挙げ、全体へ大きく貢献した模様。一方、北米と中国市場の減速が続く中、中国における日本車人気が高く、各社の業績に大きく貢献している模様であるが、国内生産に大きな変化は見られない。また、米中の貿易戦争は更に深刻化しており、国内への景気への影響が心配される。
		建設業	お客様や金融関係の人との話からは、景気が動いているとは感じない。
		運輸業	特に貨物の量は変化がありません。
		金融業	3か月前と比較して、ほぼ変動なく横ばいに景気状況は推移しているものと判断。
		不動産業	消費増税が目前であっても駆け込み需要はなく、業績が好転していない。
情報通信業（情報サービス業）	国際情勢等の微妙なニュースはあるが、地域的・業界的には変わっていない。		
雇用	公共職業安定所	有効求人数、有効求職者の前3か月及び前年同月期を見ても、ほぼ変わらない状況である。有効求人倍率も1.5倍と高い状態が続いている。	
	商店街代表者	昨年同期比でやや売上げが落ちているので、やや悪くなっていると判断した。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	勤務されている従業員の声を聞いていても良くなっている様子はない。また、店舗の客数は依然として厳しい数字となっている。
		小売業（燃料）	ガソリンの販売量が減少している。（前年比マイナス10%以上）
		小売業（酒類）	来店客数の減少、インターネット販売の落ち込みと、現況は大変厳しく感じている。
		ラーメン店	支払いは増えるが所得は増えないというお客様の声を聞きました。
		ラーメン店	平日の来店客が減少している。特に夜の来店数が少なくなっている。
		観光型ホテル	実際に悪いため、やや悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	昨年同期と比較し、宿泊はほぼ横ばいであるものの、日帰り利用の売上げが減少しており、景気はやや悪くなっていると判断する。
		ドライブイン	売上げ85%、客数96%、点数87%となっている。暑さも一段落して過ごしやすいシーズンとなった。客数はそれほど変化がみられないが客単価が低い。未だキャッシュレスを導入していないが、お客様の要望も今のところない。対応できるようにはしたい。
		住宅販売会社	消費税増税の反動で来場が劇的に減っている。約3割減。但し注文数はさほど変化していない。
		企業	林業関係者
製造業（食料品）	売上げが減少している。ただし、特売をやると売れるのでお客様は価格の安いものを求めている。		
製造業（化学工業）	取引先から得た情報によると総じて売上げが落ち込んでいる。		
製造業（精密機器）	車の部品の量産の数が減っている。全体的に減っている。		
運輸附帯サービス業	大型連休、働き方改革（有給休暇の行使）などで、売上減なのにもかかわらず、人件費はあまり減っておらず、利益が上がらない。		
雇用	求人広告	閉店や事業所閉鎖など母数の減少を顕著に感じる。	
家計	タクシー運転手	地域の空地等が増えている。お客様からは店が減っていると聞いている。	
悪	企業	製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連の受注が増えてこない。原子力関連の引き合いも少ない。

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	家電量販店	消費税増税前に駆け込み需要があり、売上げが伸びている。	
	企業	農業関係者	秋の収穫時期となり米、栗、梨、花き等の農作物の販売代金による収入がある。	
やや良くなっている	家計	百貨店	今月の売上高の前年比が、3か月前の売上高の前年比を上回っている。	
		百貨店	アイテムによって凹凸があるが、化粧品などの消耗品の動きが良い。10月の消費税の増税前の買い溜め（駆け込み）もあると思う。	
		スーパー	増税、貿易戦争、社会情勢不安などから若干、買い控えがあるような気がする。各チェーンでポイント合戦が予想されるが、お客様は静観し、必要なものだけ買うという状況が予想される。	
		自動車販売店	市場上、登録台数が増加してきている。多少なりとも消費税の駆け込みがあると感じられる。	
		レストラン	国体関係でのレストラン、宿泊の他に宴会場利用もあり、食材、人件費等県内にとって大きく影響があると思います。	
		割烹料理店	仕入先などでの人の動きが活発な気がする。	
		バス運転手	水戸黄門まつりの花火が週末開催となり、人出が多くなったように感じる。茨城国体関連の動きが出てきている。	
		タクシー会社	水戸駅からのお客様利用頻度が向上している。また、常時利用客の利用回数が向上し、県外よりのお客様の利用が増加している。	
		ドライブイン	観光のお客様、国体の下見のお客様など多少動きがあったと思います。インバウンドのお客様より、しばらくぶりに国内のお客様がありました。少し予約も増えました。	
		ゴルフ場	今年度4月からの立ち上がりから連休及び連休明けにかけての来場客の落ち込みに比べ、7～8月にかけて、比較的来場客数が安定的に推移している。	
		レジャー施設	燃料費（仕入単価）の値下げ市況が継続していたため、燃料販売数量が増加したものによる。	
		ペット美容室	暑い時期なのでご来店のお客様が例年この時期は増えます。	
		企業	製造業（窯業・土石製品）	増税前で若干潤っている感じがする。
			サービス業（コンサルタント業）	受注が多いため、やや良くなっていると判断した。
雇用	人材派遣業	仕事の引き合いが増えている。		
変わらない	家計	商店街代表者	あまり変化はみられません。	
		スーパー	消費税増税が近づいているが、特需もなくいつもと変わらない。	
		スーパー	消費税増税を目前に控えているが、買い溜めなどの消費活動がない。	
		コンビニエンスストア	特に変化はありません。	
		小売業	お買い物されるお客様の人数は平均している。客単価についても大きな変動はない。ただし、比較的高額なお支払いをするお客様は中国人を含む海外のお客様が多い。	
		レストラン	10月からの増税に伴う駆け込みの様子もまだみられない。予約状況をみても客単価上昇は無い。	
		都市型ホテル	変化が見られない。	
		観光型ホテル	団体客の減少がみられるものの、個人客の流れは堅調。	
		旅行代理店	申し込み内容による。	
		タクシー会社	売上げが横ばい状態。	
		観光名所	インバウンド需要のおかげで海外からのお客様は増えてはきているが、国内の消費が落ち込んでいるため、トータルの売上げはあまり大きく変わっていない。来客数もやや少なくなっている。	
		スパ・銭湯	7月の冷夏はあらゆる業種において予想外の落ち込みがあったものと思います。例年であれば、海水浴客等のレジャー客等で県内外からの客の賑わう時期ですが、今年は全く見られない状況となり、8月に入れば経験したことのない酷暑となり、天候の影響を大きく受けた夏となってしまいました。しかし、長期の夏季休暇であったために、10日間は平均した集客が出来たことが救いとなったものです。	
		建築設計事務所	業務が多様化、複雑化傾向にあり、働き方改革と逆行して作業時間が増える状況だ。忙しい状況ではあるが仕事が増えた訳ではない。	

変わらない	企業	製造業（印刷・同関連業）	売上げの伸び率は6月と同等であるが、消費税増税により駆け込み需要が若干あった。
		製造業（金属製品）	引合いの量がピークだった頃に受注した案件を現在こなしているため、今は高い稼働率を維持できている。
		製造業（一般機械器具）	受注も変わらず入って来ている。
		建設業	仕事の流れが平準化している。
		金融業	業種による差はあるものの、全体的に売上高横ばいにて推移している企業が多く、設備及び運転資金においても慎重であり、従前と比較しても変化はないと思われます。
		不動産業	新築の引渡しや法人関係の異動で先月（8月）よりは動きがあるが、3か月前と比べると変わらない状況である。消費税増税による影響も思っているほど無い。
雇用	公共職業安定所	有効求職者数は、87か月対前年月比でマイナスであったが、7月は±0となった。有効求人倍率は4月に対前年月比でマイナスになったが、ここ3か月は対前年比プラスとなっている。	
	学校就業関係者	企業からの求人についての問い合わせが増加している。しかし求人情報の大学生給与単価については変動がないため、人手不足と雇用の実態とのアンバランス感がある。	
	求人開拓員	日常業務の中で取扱いを行っている「事業所求人件数」、施設利用の「求職者数」とも大きな変化が見られない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	来店客数も少なくなり、購入金額も低く、民間会社、企業からの受注もほとんどなく、厳しい状況が続いている。
		スーパー	消費税増税前の需要があったがなかったのと、買い控えがある気がする。
		スーパー	買い物される際の商品選定が以前より厳しくなっている。単価も同様に意識されている感じがする。
		農産物直売所	ギフトの果物が平年より単価が安く、小箱の物の動きが多い。お買い得品を出しても、買上げ点数が伸びない。
		楽器販売	金額ベースでは微増なのですが、増税前の駆け込み需要を想定すると、全く増えてないので、実質下がっていると考えられます。
		都市型ホテル	全体の予約状況が伸びていない。レストラン利用も特に夜が落ち着いている。
		タクシー運転手	このところ公共交通機関（バス）の運行本数（水戸駅北口～大工町交差点）が以前と比べて非常に多くなった気がします。その影響もあり、タクシーもやや暇になっている感じです。
		レジャー施設	施設利用者数が、前年比で4月～6月が約4%増に対し、7月～8月が約5%減と下がっており、景気の後退感があります。
		住宅販売会社	前年同期比で約1割来場数が減っており、5月～8月にかけてお客様の来場数と来場されたお客様の購買意欲が非常に低く感じる。また、選挙後急激に増税をニュースで取り扱うようになり、それでいて、住宅の場合は増税後の詳細が一般のお客様方には不明瞭のようで、増税を理由に突然親の反対を受けたり、増税後の不安や増税後のメリット等が混在し、判断がつけられないお客様が増えている。
		企業	製造業（食料品）
製造業（印刷・同関連業）	日々の売上げ状況を含め、お客様の反応が芳しくない。		
運輸業（道路貨物運送業）	夏季休暇が長かったため、原材料の動きが良くなかった。		
サービス業（広告業）	自動車、住宅の販売が不振。駆け込みさえない。		
雇用	求人広告	人材不足から、なかなか思うようにビジネス展開できない。	
家計	理・美容店	今までになく暇である。理由が思いあたらない。	
悪	企業	製造業（精密機械器具）	自社製品の受注が低迷しています。特に現場設置タイプの大型製品が、買い替え需要の一巡と思われます。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	—	—	—	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	増税前の駆け込み的な注文・受注があったり、消費・購買意識が高まっている感があるために、僅かではあるがやや良くなっているのではないかと思います。	
		家電販売店	商品、集客の状況から判断しています。	
		小売業（薬品店）	客数はほぼ変わらないが、買上点数・客単価が上がっている。増税前の駆け込み需要があると思われる。	
		観光型ホテル	宿泊予約数が少し増加している。	
		都市型ホテル	国体の影響。	
		ゴルフ場	天候要因もあるが、予約状況は非常に良かった。	
	企業	製造業（金属製品）	(1)米中経済戦争の中で、中国や他の国からリターンする商品がわずかに増量。一部では最近韓国からのリターンも始まっている。 (2)10%消費税増税のムードは弱い購買力はある。	
		火力発電所	販売量の増加。	
	変わらない	家計	スーパー	客数、売上げ等ほぼ前年並みの推移になっている。
			コンビニエンスストア	客数も客単価も変わらない。（前年比）
農産物直売所			購入の意識より、蓄えの意識が高い。	
小売業（菓子類）			3か月前の対前年比の売上げと今月のそれはほとんど同じである。	
和食レストラン			足元売上げ・利益の前年比伸び率と、3か月前（6月）の前年比伸び率に大きな変動はない。	
観光型ホテル			3か月前と比べても、予約状況など変わらないと思う。	
タクシー運転手			現状の政権では、いつまでも変わらない。上・中・下で表現すると、上・中の社会だけが優遇されているようで、このままいくと段々と悪くなっていくように思う。消費税も増税されることだし、期待できない。	
ドライブイン			先月8月の売上げが、3か月前と比べると変わらない。	
ゴルフ場			特に変わってきた感覚はありません。	
住宅販売会社			変わりがない。	

変わらない	企業	農業関係者	農産物の販売単価は、持ち直し気味ではあるが、昨年と比較するとそれほど良くなっているとは思われない。消費者の購買意欲は、昨年と比較してもあまり大きな変化はない。
		製造業（食料品）	米国と中国との輸入関税引上げ合戦や韓国の日本製品不買運動等、外部要因の影響も加わって景気上昇とはならない。
		製造業（電気機械器具）	特に変化は見られない。
		建設業	好景気と言われ続けておりますが、一部の業種にのみ、そのような好景気と言われているのではと感じます。
		建設業	建設業関係なので新築着工棟数が少ないです。大手ハウスメーカーなどの競争もあり、受注が思うようにとれない。中小工務店様相手なので。
		運輸業（道路貨物運送業）	変わっている実感がない。
		金融業	消費税増税の駆け込み需要などにより売上げ上昇が期待されたが、お客様の状況は昨年並みの売上げが多く3か月前と比較して変化はない。
		保険業	特に変化が認められない。
		不動産業	変わらないが、土地の仲介、中古住宅の仲介物件が少しありました。
		不動産業	天候の不順等もあったが、数字的には特別変化を感じません。
		サービス業	年度が替わって、第1四半期では大きな変化はなかったが、顧客の年度予算が確定したことで、第2四半期では引合いが増えてきている。しかしながら、昨年度と比較すると、トレンドも引合額も大きくは変わらない。
	雇用	民間職業紹介業	企業からの求人は増えていますが、見合う求職者が少なく募集に大変苦勞している。
		公共職業安定所	新規求職者数及び新規求人数は増減を繰り返しており、大きな変化は見られない。
		学校就業関係者	相変わらず人手不足でアルバイトも入ってこないため、休みが取れない状況が続いている。（ここの職場も同様）
求人開拓員		求人の数は相変わらず増え続けているが、応募者の数が少なく感じる。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	コンビニの客数減少、日経平均株価が下がっているので、悪いと感じる。
		衣料品販売店	増税前の駆け込み需要は感じられず、むしろ客数、買い上げ点数ともに減少している。
		農産物直売所	客数はもとより、客単価が落ちた。購入率が悪くなっている。
		小売業（食品）	10月の消費税増税で買い控えしているように思われます。
		洋食食堂	6月が前年比110%だったため、9月は少し売上げ減です。
		割烹料理店	予約の状況や、フリーのお客さんの入り方からみて。
		運転代行	売上げの数字がやや低い。
		タクシー会社	前年の実績と比較して若干低かったため、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	天候の影響もあると思うが、お客様の来店が減っているのと、商談の数も減っている。
		クリーニング店	来月からの消費税増税のために買い置きする傾向にあるが、その反動がしばらくあると思います。値段の高い商品は特に。
	企業	製造業（化学工業）	当社業績が悪化傾向。
		製造業（食料品）	コンビニや量販店で菓子が多く売られている。
		製造業（ゴム製品）	受注量が減少している。
製造業（鉄鋼業）		業界の経営環境の悪化に伴い、状況が悪くなってきていると感じている。	
運輸業（道路貨物運送業）		3か月前と比較して、業績マイナス。前年対比もマイナス。	
雇用	人材派遣業	派遣オーダー（特に事務系）の新規オーダーが減少している。	
悪くなっている	家計	スーパー	3か月前の売上げ前年比101.4%に対して、今月の売上げ前年比は97.2%となっている。
		小売業	増税前の不安や自然災害などの不安・被害等があり、財布の紐が堅くなっていると感じる。
		日本料理店	大型連休や夏休み等、前年と比べて遠方への旅行者が増えた事により、景気は悪くなっていると判断する。
		理・美容店	毎日のお客様の数が少なくなっていて、自分たちの生活もめいっばいです。
	企業	製造業（鉄鋼業）	自動車部品等の受注が減少し、製品出荷が今までの半分以下になってしまった。建築部品等は現状維持しているので、どうにか悪化を食い止めたいところ。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	—	—	—	
やや良くなっている	家計	家電販売店	増税前ということで、前年よりは売上げが上がっている。	
		家電販売店	10月の増税のため、やや良くなっていると判断した。	
		和食食堂	価格改訂により、値上げを実施したが、客単価、来客数ともに向上しています。	
		タクシー運転手	コンビニでコーヒーを買っていたお客様が、スタバに行かれるようになった。	
		テーマパーク職員	季節的な要因も少なからずあるかと思うが、10月からの消費税増税に伴い、レジャー施設でも利用料金の改定があるようで、9月までに一度利用してみようというお客様も見受けられる。また9月に入り、大人のご利用者が多くなってきている。一日のご来場者の80%が大人の日も多い。決して料金が安いわけではない体験型の施設を利用する大人の方が多くなっているのは弊施設で考えると景気はやや良くなっていると言える。	
	企業	農業関係者	生産物として米の収穫がスタートした。昨年より販売単価が若干上がっている。下げる要素が見当たらないと話す。	
		建設業	消費税増税に伴う、駆け込みと思われる。	
		建設業	今月は消費税率変更前でもあり、また台風被害の工事などもあり、工事量が多いのは当然のことであるが、その分を差し引いても3か月前と比べると大幅に工事量が増えている。よって、景気はやや良くなっている。	
	変わらない	家計	スーパー	客数、客単価とも変化があまりみられない。
			スーパー	客数変動なし。
スーパー			お客様数、買上げ点数、客単価ともに大きな増減はない。	
コンビニエンスストア			良くも悪くもお店の数字ばかりに目がいってしまい、世の中の景気についてはあまり触れられていない。	
農産物直売所			6月の景気はあまり良くなく、前年度と比べても少々減少。8月～9月に消費税増税前ということでお客様への期待もあったが、関係なし。	
小売業			施設売上げは前年売上げを少し超える程度で推移し、今年3月の売上げトレンドと変わらない状況。アパレル関連はECの影響もあり全体的に苦戦を強いられている。	
寿司店			来客の顔ぶれがほとんど変わらない。	
都市型ホテル			宿泊・レストランなど個人利用につきまして、3か月前と比較して、特に大きく入客増があるわけでもなく、変わらないと思えました。また、企業の宴会等団体につきましても通常の間合せや獲得状況であり、増減もあまり見られませんでした。	
都市型ホテル			以前の長期滞在客は仕事の休みの日でもチェックアウトせず、そのまま滞在してくれたが、いったんチェックアウトして2～3日後にチェックインする客が多くなったように思う。経費節約する客が目立つ。サイト予約の客が圧倒的に多いが、その中でも安いプランから売れている。ホテルの良し悪しより、とにかく安いホテルを探しているようです。	
タクシー運転手			6月と比べると、売上げが同じくらいなので変わらないと判断しました。	
タクシー運転手			乗車回数が増えない。特に夜間の飲食店等の迎車が少なくなっている。会社関係の接待と思われる顧客が少ない。	
タクシー運転手			お客様が変わらないと言っています。	
タクシー会社			つくば市で運行しているタクシーが格安で、一般の経営しているタクシー会社は、なかなか市民は利用しない。企業の人の利用をあてにするしかない。	
サービスエリア			平成29年2月の茨城県内圏央道全通に伴い、常磐自動車道の交通量は減少傾向にあったが、平成30年6月に外環道が開通したことにより交通量は微増の傾向にあり、入館者も同様の傾向。各個人の購買意欲は相変わらず高い率を示しており、交通量の増加したエリアにおいては、それなりの売上げを示していることから、前回同様特段の景気の変化はないと判断した。	
ゴルフ場			来場客の数、キャンセル待ちの人数など大きな変化は見受けられない。	
ゴルフ場		消費税の増税が目前に迫っても、この業界はプレーを多くしに行くという事はない。商品であれば早めに購入という事もあるが、それも一時的なものと思われる。		
ボウリング場		お客様の動向に変化が感じられない。		
レジャー施設		前3か月間と比較して、売上・入場者数ともに大きな変化が見られない。		
理・美容店		売上げや動員に動きがあまりない。		
設計事務所		仕事を比較して、変わらないと判断した。		
住宅販売会社	注文住宅の消費税前の駆け込みもさほどなく、落ち込みもないように思われます。景気は、3か月前と比較してもあまり変わらないと思います。			

変わらない	企業	農業関係者	9月期（初旬まで）の来客数・客単価を今年6月期と比較すると両者ともほぼ変わりはない。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。
		製造業（食料品）	取引業者からの注文数・頻度とも変わらない。ネット注文も、少ない様子は感じられない。
		製造業（飲料）	変化を感じられない。
		製造業（家具・装備品）	来客の多少について、多くはなっておりますが、売上高は下がり気味です。製造の方は、仕事は切れる事なくいつも同じペースです。
		製造業（窯業・土石製品）	当社の業務は公共事業が主なのでそう変わりません。
		製造業（窯業・土石製品）	前期比と比較してもほぼ同じ状態。特に良くも悪くもなっていないと感じる。
		製造業（非鉄金属）	良化・悪化がまちまち。ならせば変わらない。
		製造業（一般機械器具）	特に変化なし。
	金融業	消費税増税に伴う駆け込み需要も乏しく、消費の駆け込みより、節約に走るお客様が多い様子である。そのため、業種によって差はあるが、設備および運転資金においても慎重であり、従前と比較しても変化はない。	
雇用	公共職業安定所	管内の有効求人倍率は、5月末1.06倍、6月末1.10倍、7月末1.09倍とあまり変動がない。	
	学校就業関係者	業務上、求人数などから判断することになるが、変わらず求人数も多い。	
やや悪くなっている	家計	小売業（生花店）	8月に入ってから、昨年と比べると急に注文が減ってきている。消費税増税の影響か、購買意欲が下がって来ているように感じる。必要なものしか購入しない感がある。
		小売業（米穀）	動きが静か。
		日本料理店	前年比と比べると、夜の伸びがやや悪い。
		理・美容店	近くで区画整理された分譲地が全く売れていないことをみると、この直近ではやはり景気は悪くなっているのかなと思う。
	企業	製造業（食料品）	客数が減っている。消費税が増税されるので高額の商品は駆け込み需要があるが、少額の食料品などにお金が使えないと思う。
		製造業（その他）	米中問題により、受注が減っている。
		不動産業	賃貸：過去最高の空室率を更新している。 売買：投資物件に対しての金融機関融資が厳しくなっている。
		運輸業（倉庫業）	入出庫に伴う動きが減っており、スポット的な動きに頼ってしまっている。
	雇用	人材派遣業	メーカーからオーダーが減少。
		求人広告	製造業の企業様数社で、生産見込みが不安定になったとの情報から、やや悪くなっていると判断する。
悪	家計	コンビニエンスストア	消費税増税前の買い控え（来店数、購入アイテム、客単価の減）。
		洋食食堂	季節要因を除いての判断というのは、いつも難しいと思っています。というのも、夏の間は出掛ける場所が違ってきますし、レストランなので食材のおいしさが豊富に入荷する秋、冬、春のお祝い等に関係してます。（売上げ）
	企業	製造業（窯業・土石製品）	売上げが減少している。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	商店街代表者	増税前の買物客が増えたような気がする。
		家電販売店	10月に増税が控えているので、やはり大型家電商品の動きが良くなっている。
		ホームセンター	客数、売上げが若干伸びているので、やや良くなっている感じはあるが、消費税増税直前の駆け込みと思われます。
		旅行会社	10月の増税前に（買っておこう）、という動きがあるでしょう。
		ゴルフ場	過去5年間の予約推移を鑑み、例年以上の予約が入っている。夏の猛暑の反動かもしれないが、消費単価も全体的に上がってきている様子。
	企業	製造業（電気機械器具）	消費税が上がる前の買い替え需要により、やや良くなっている。
		製造業（化学工業）	中国スマホ市場が若干の増。
		製造業（窯業・土石製品）	現時点では忙しい。しかし、量がたくさんあつての忙しさではなく、納期のない飛び入りの発注での忙しさ。しかも、単品・部材だけの注文なので売上げは上がりませんが、大至急なので、またお客様もその注文品がないと仕事がストップするので、当社の設定単価をいただけることができますことはありがたいです。
		製造業（金属製品）	今のところ受注量は増えている。
	金融業	増税に伴う一時的な消費の増加が僅かながらも感じられ、事業者の資金需要も前向きに感じる。	
雇用	求人広告	現在に関してはお客様との会話から景気が悪いとネガティブな話は出てきてはいない。 人手不足から仕事を頂ける機会が増えているようには思える。	
変わらない	家計	スーパー	客数、売上げ共に横ばいである。
		衣料品販売店	売上げの比率でも一般衣料の割合が下がっている。普段の買物にも地元の個人店ではなく、ショッピングモールや大型量販店に流れている。
		農産物直売所	3か月前と比べて青果物の価格が上昇した。（8月の長雨後の猛暑、9月上旬の台風の影響） しかし、価格は上昇したが、出荷量が少なく売上げは横ばい。
		レストラン	特別変わった事がない。
		食堂	お客様の流れにあまり変化がない。
		旅行代理店	物価は高いままで、生活にゆとりがない。観光のお客様の集客が良くないので、中止するケースが多い。
		タクシー運転手	売上げ、客数共に変わりなし。
		タクシー会社	変化を感じない。
		タクシー運転手	タクシーの売上げが先月とほぼ同額です。今後10月から料金も少し上がるので、期待できない。
		ドライブイン	お客様との会話、日々の売上推移を観察した結果好転はしていない。
		ゴルフ場	予約状況にて。
		パチンコ店	客数が変わらない。
		理・美容店	お客様との会話でも、さほどの変化は感じられない。
		商店街代表者	主要な取引先からの受注額が変わらず、大きな変化は見られない。
		クリーニング店	夏休みに出掛ける人もいれば、近場で過ごす人もいました。基本的にはお金を出すことには渋っていると聞きました。
住宅販売会社	展示場の来場数は変わらず伸びていない。		

変わらない	企業	畜産業関係者	特に変化を感じない。
		製造業（窯業・土石製品）	新規案件受注は増加しているが、終了案件も同じくらいとなっている。
		製造業（電気機械器具）	受注変動による人員増員要請は、引き続き停止している。
		建設業	特に変化を感じない。
雇用	サービス業（コンサルタント業）	大きな変化は感じられない。	
	学校就業関係者 求人開拓員	現在も企業からの求人は多く、求人推移は昨年と同等である。 管内の事業所の求人傾向に特段の変化は見られなかった。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	曜日特売日のお客様数の変化と、買上げ点数の変化が大きく、無駄な物は買わないように思える。
		コンビニエンスストア	売上げについて、3か月前の前年比と比べ、今月の前年比はやや悪くなっています。客単価も下がっていることから、景気はやや悪くなっていると判断します。
		コンビニエンスストア	コンビニの24時間問題など、社会全体での問題が大きく報道される事で、客の分散を招いているように感じます。
		自動車販売店	消費税増税前なのに駆け込みが全然ない。
		都市型ホテル	7月からの天候不順。
		ドライブイン	消費増税前の駆け込み需要も特になく、客数、単価とも微減となっている。
		レジャー施設	来場者数が若干減っているため、売上高も若干減っている。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	構造的なものか、受注が回復しない。
		製造業（窯業・土石製品）	受注残減少（9、10、11月納品予定分）より、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	本年10月からの消費税増税実施に伴う、駆け込み需要があり6～7月は多忙であったが、現在は上期末でもあり、全く逆のパターンとなっている。
建設業		今月の前年比と3か月前の前年比を比べると、今月の前年比が少し悪くなっているため、やや悪くなっている。	
雇用	人材派遣業	派遣終了の会社があった。	
	公共職業安定所	事業所から、雇用する人員を減らすなどの話を聞いている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	10月の消費税増税や、台風災害等が重なったほか、5月の大型連休時の消費の反動によると思われる消費の減退、夏休み明け特有の買い控え等により悪くなっていると思われる。
		製茶販売	スーパーの買い物でも一回の買い物での使う金額が平均して少なくなっている。余計なものは買わなくなった。
		日本料理店	毎日各営業所別に前年売上げと今期売上げ記入し、赤字（－）になっています。8月分はやや良かったのですが、今月は赤字です。広告等も出して前へ進む様努力しています。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	スーパー	キャッシュレスの消費者還元の効果があると考えている。認知度が上がるにつれて、加速して消費は良くなると思う。
	企業	製造業（電気機械器具）	作業量が多く、人員不足で別の会社から派遣を受けている。
やや良くなっている	家計	小売業（水産物）	外食を控え、自宅食が増加し、売上げが向上すると予想している。
		観光型ホテル	現在がかなり悪いため、季節的な部分も考慮して多少は良くなっていると思われる。
		タクシー運転手	増税駆け込みの影響で、消費が低迷すると思われる。
		ゴルフ場	消費税増税の影響がある。
企業	運輸業	見積依頼が増えているため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	商店街代表者	新設の統合小中学校やホテル等の物件が進行し、海浜公園のイベント、流通港へのクルーズ船などが予定されていて、変わらないにぎわいが期待されるのではないかと。
		衣料品販売店	増税前に買い物をという人がいない。
		自動車販売店	正直なところ、変わらないというより「わからない」「読めない」というところである。
		小売業（酒類）	良くなる期待は持てないと思う。
		小売業（時計）	消費税の話ばかりで、小売業はやや悪くなっていると思われるが、ポイントを付けるとのことによってそれほど影響はないと思うので、変わらないとの判断です。
		ラーメン店	確定している納品や、お店に足を運んでもらえる先読みが出なくなってきた。
		食堂	年金生活者は前より地味に生活しています。うちの店は昔から、食べられなければ大盛りにして半分ずつにして食べて、残されるより気持ちがいいからという店なので、今時客単価500円などです。自分も42年間働いてきて少しも多くもらえず、預金があるうちは頑張るのみ。
		旅行代理店	毎年、年末は旅行需要が低い。今年も昨年の受注状況と比較しても変化がない。
		タクシー運転手	残業などの規制が強くなり、収入面にも影響が出ているとの話をお客様から多々耳にすることがある。飲食店などを見てもお客様の数が少なく見える。このような理由により、横ばいが見込まれる。
		ドライブイン	ベースアップでもあれば少しは消費欲増に繋がるかもしれないが、他に良くなる要素が見当たらない。
		レジャー施設	消費税増税を考慮し、先行きが不透明な懸念がある。
		ゴルフ場	9～12月の予約ペースは前年並み。
		ボウリング場	前回の、消費税の税率が8%に上がるタイミングで、利用料金の値上げを実施した際、税率が10%に上昇する事を見込んで金額設定を行ったため、今回の税率改定時においては、料金の値上げは行わず据え置くので、来店者数の減少は最小限のマイナスにとどまるものと推測する。例年並みのお客様が来店されるのであれば、現状維持ができると思われるため、景気判断は9月と比較しても大きな変動はないと考える。
		写真店	ガソリンが相変わらず高めなので、遠出する方がやや減少している話を聞く。写真も、プリントにしてというより、データ保存の方が多くなっている。
写真店	新規の仕事もなく、また新規の仕事があっても人手不足で出来ない。		

変わらない	企業	林業関係者	通常の価格の変動と変わらない。バイオマス材の不足と大径木の流通に課題が残る。
		製造業（電気機械器具）	前年と比べ、特に変わった傾向は見られません。
		製造業（電気機械器具）	受注残や様々な情報でもあまり回復の兆しが見られない。
		製造業（一般機械器具）	9月の予測値では想定より多少の増産見込みはあるが、3か月先において特に大きな変動が起きる要因は今のところない。
		製造業（輸送用機械器具）	消費税増税による需要影響が少ないことと増税後の優遇税制への改正等もあり、過去のような反動が少ないものと想定される。
		製造業（精密機器）	忙しい所は忙しいと思う。
		建設業	見積依頼件数からすると、多くもなく少なくもなくという状況である。こういうことから、あまり変化はないと思われる。
		不動産業	増税直後であるがあまり大きな変化はないと思われる。
		情報通信業（情報サービス業）	3か月の期間では変わらないと思う。
雇用	学校就業関係者	このままの状況で推移していくと思う。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	単純に増税後で全体の消費は冷え込むと考える。地域のプレミアム商品券などもあるが、今回は購入できる対象者が限られており、当店は来店客の商圏が他市へと広いいため、今回の商品券が使えない人が多い。
		スーパー	増税の影響で買い控えする人がでてくると思います。
		酒・各種商品小売業	変わらない、またはやや良くなっていると答えたいが、大型店の動向に不安有り。
		コンビニエンスストア	増税は少なからず、心理的な影響があると思います。不必要な買い控えが起こって景気としては悪くなっていくと思います。
		小売業（燃料）	原油価格の上昇と消費増税で商品価格が上がるため、販売量の減少が見込まれる。
		スナック	増税されるので、やや悪くなっていると判断する。
		ラーメン店	追加で一品を注文する客が減ってきている。
		タクシー運転手	消費税の増税に併い、運賃改定があり、その影響が直接売上げに反映する。
		ゴルフ場	増税の影響で、やや悪くなっていると判断する。
		企業	水産業関係者
製造業（食料品）	消費税増税に伴う購入機会の減少が予測される。		
製造業（食料品）	売上げが減少している。ただし、特売をやると売れるのでお客様は価格の安いものを求めている。		
製造業（精密機器）	全体的に新しい仕事がなく、動きが止まっている感じがする。		
金融業	増税後の景気の落ち込みを懸念する声もあり、やや悪くなっていると判断。		
運輸附帯サービス業	消費税の増税が、様々な分野で影響を及ぼしそうである。		
雇用	求人広告	消費税増税や最低賃金の改定など景気に左右する変化が多い。	
	公共職業安定所	新規求人倍率は前3か月で、2.17倍～2.41倍と高い状態が続いている。新規求人、新規求職の8月の状況を見ると、新規求人数については事業所側で8月は求職者の動きも少ないと見込んだこと及び米中関係、日韓関係の悪化により、仕事量減少した等の理由で手控えたため求人数が減少したと思われる。新規求職者については、8月は事業所の休日も多く、求人の動きが例年少なくなることから、様子見の傾向が強かったため減少したと思われる。将来の景気については海外情勢により悪くなる可能性がある。	
	求人開拓員	ちょうど増税後の景気動向となるが、誰も予測できない状況である。増税前の反動でやや悪くなるのではないかとと思う。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	消費税増税による家計圧迫から、主要食品以外は売上げが落ちると思う。
		観光型ホテル	宿泊予約状況は変わらないが、増税の影響か昨年同様より料理コースの金額を落として予約するお客様が多い。売上げ予測もあまりよくないため、景気は悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	良いことがない。増税、年金の減額がある。
		住宅販売会社	来場が増える見込みがない。受注はより一層厳しくなると思う。
企業	製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連は、米中の貿易摩擦の影響でさらに悪化すると考える。	
	製造業（化学工業）	消費税増税後の景気の冷え込みが当然起きると思う。	

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	農業関係者	市内では観光イベントが多数開催され、観光客が多く訪れ商工関係者は潤うと思います。
やや良くなっている	家計	旅行会社	国体があるため、バスの受注はたくさんある。
		バス運転手	消費税増税による消費の冷え込みがあると思うが、それ以上に茨城国体開催による地方経済への影響が大きいと思う。
		タクシー会社	企業の利用に加えて一般客の利用も増加傾向にあることから、景気状況も好転をしているものと判断します。
		ゴルフ場	雨天・荒天によるキャンセルの割合が以前より高まっており、天候が安定的に推移（特に土日）していることが追い風になっている。また、消費税増税に伴い諸物価が上昇傾向にあることも一因と考えられる。（消費税引き上げに関する諸施策の効果も影響か）
		理・美容店	例年と変わらなければ12月は忙しくなっていると思う。それを期待したい。
企業	製造業(食料品)	茨城国体や観光等で需要がやや高まる見通し。	
	不動産業	来年に向けた新築物件等の情報発信の時期ではあるため、来客数、問合せ数も増えることが予想できるため、やや良くなると思う。	
雇用	人材派遣業	今後も受注は増えていくと思う。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	特に変化はありません。
		農産物直売所	消費税増税もあり、消費が伸びるとは考えにくい。飲食の予約の入り方も平年よりやや鈍い。
		レストラン	国体が一段落して通常に戻ると予測しています。
		都市型ホテル	変化があるように思えない。
		都市型ホテル	先々の予約も前年と比べて落ちていて、回復がどこまで進むかという状況のため変わらない。
		タクシー運転手	10月に消費税が10%になる事から、タクシー料金も初乗りが730円から740円に変わると聞いています。そうなると悪い状態が少しの間続くと予想されます。
		ドライブイン	消費税が10月より10%に増税されるにあたって、その影響が出るかどうか。
		スパ・銭湯	国体開催により、県内への集客は多くなり、ムードが良くなるものと思っております。当館も開催期間中の宿泊の予約、問合せが多くあります。しかし同時に消費税の引き上げが個人消費にブレーキをかけるのではないかと危惧するところです。
		レジャー施設	今後の原油市況次第ですが、燃料費が引き続き安定していくものであれば、現状を維持するものと予想される。
		企業	製造業(印刷・同関連業)
金融業	今後3か月先の売上高の見通しは、ほぼ全業種において横ばい(見通しが無い)との話しかから、景気は現状と変化なく推移するものと思われま。		
サービス業(コンサルタント業)	3か月先の受注依頼があるため、変わらないと判断する。		
雇用	公共職業安定所	7月に管内50以上の400社を対象に事業所業況調査を実施し、257社から回答があったなかで、自社の業況感で、現在はやや不振と不振で23%であったが、先行きでは27%であった。業況に与える要因(複数回答可)は、人手不足(採用困難)が152事業所、働き方改革・長時間労働が84事業所となっている。雇用の過不足状況は現在が不足50%で、先行きでは56%が人手不足をあげている。	
	学校就業関係者	8月以降も求人が一定数ある。この状況は昨年と比べて大きな変化はなく、売手市場で推移していると思われる。	

家計	商店街代表者	個人需要，企業・事業所，官庁・役所等の全部の受注が底上げしないとなかなか良くならない。
	百貨店	2016年の増税（5%→8%）ほどではないと考えているが，反動は必ず出ると考えています。（増税前に伸びたアイテムには必ず反動が出ると考えています。）
	スーパー	増税で買い控えがおきる。キャッシュレスは若年層では進み浸透するが，購買力のあるシニア層は浸透せず，ということになりそう。
	スーパー	消費税増税後，5%還元が始まり若者には良いが，その恩恵に浴せない高齢者の節約が始まり，消費は落ち込むと思う。
	スーパー	増税と件でお客様の行動がより慎重になってくると思われます。
	スーパー	消費税増税による買い控えがボディブローとして家計にじわじわと効いてくる。
	小売業	消費税増税によって，景気が悪くなると思う。軽減税率のような手間がかかる，まよかしのよう施策は良くないと思う。何のための増税なのか，10%に上げて税収があがるのか，その税金の使い道が明確ではない。説明に透明性がないので，おそらく将来的には12%，15%等，税金を上げたいと言ってくると思われる。3%から5%，5%から8%に上げてきて，その検証結果の説明もない。
	自動車販売店	増税の反動が少しは出てくるのではと思う。
	楽器販売	増税による買い控えは必然と思われ，贅沢なもの，今すぐ必要ではないものへの購入意欲が増すとはいえない。
	レストラン	増税により来店頻度が少なくなることが心配される。
	観光型ホテル	消費税増税の影響がどの程度かは予測できないが，多少なりとも消費マインドが低下し，影響が出始める気がする。
	旅行代理店	増税の影響でやや悪くなっていると判断する。
	タクシー会社	短期的には国体の影響等で売上げ増が見込まれるが，消費税増税に伴う節約志向が心配。その上，サウジアラビアの石油の問題で，燃料費が高騰するようになると，経費が増大。
	レジャー施設	消費税増税時期が到来するので，買い控え等による，ますますの景気後退が予想される。
	建築設計事務所	建築業界が慢性的な人材不足と必須建築部材の入手が困難にある。
企業	製造業（食料品）	軽減税率に対して，消費が悪くなるのではと思う。
	製造業（印刷・同関連業）	資材費の高騰がなかなかお客様へ反映できず，価格競争をしなければならぬ状況が続いている。
	製造業（金属製品）	オリンピック関連の特需も終わり，仕事の量は減少傾向になっている。見積りの量も落ちついてきており，大口の案件から単価の下落が始まっている模様。
	製造業（一般機械器具）	中国，韓国，アメリカはどうなるのかと心配です。
	製造業（精密機械器具）	米中貿易戦争や，日韓関係の悪化に伴い，その影響を受ける弊社の企業も多々あります。その結果，先ず設備投資の手控えになり，計画の凍結，シフトが増えると思います。
	建設業	仕事内容上，消費税の変更により減少すると見る。
	運輸業（道路貨物運送業）	消費税率の引き上げに伴い，荷動きは鈍ると思う。
	サービス業（広告業）	消費税の増税による，深刻な売上げ不振。
雇用	求人開拓員	米中の貿易問題，英国のユーロ離脱，イランへの経済制裁，日韓関係等々経済の悪化要因となる国際情勢が不透明なままであり，この影響が徐々に具体的な形で現れてくると思われる。

やや悪くなっている

悪くなっている	家計	商店街代表者	消費税増税に伴い、買い控えがしばらくの間続くのでは思う。
		百貨店	増税による消費マインドの低迷が想定される。
		スーパー	消費税の増税のため、悪くなると判断する。
		家電量販店	消費税増税後の反動があり、落ち込むと思われる。
		割烹料理店	消費税増税がどれほど影響があるかわかりませんが、やはり10%となると景気は悪くなると思う。
		観光名所	10月に消費税が増税されるため、消費は大きく冷え込みと予想している。キャッシュレス還元との対策が出されてはいるが、キャッシュレス自体の普及も鈍化しているように思う。
		ペット美容室	消費税増税後の数か月間は、お金の使い道としては優先順位が「生活」にあると思います。私たちの仕事はやはり生活とは密着していないので、消費税増税後、みなさんが様子見をしてそれからのご来店かと思います。消費税率のかけ方はやはり変ですよね。国会に参加されてる皆さん、数か月街に出て市民の消費税の奮闘を実際に見にいったほしいですね。
		住宅販売会社	長期に渡って折衝～ご契約頂く業務の性質上、3か月前～現在にかけて来場状況が悪ければ、3か月先は必然的に悪くなってくる。
企業	製造業（窯業・土石製品）	増税後は落ち込むと思う。	
雇用	求人広告	消費税増税が致命的なのではないか。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業	増税の影響も薄れてくるのではと思う。また、年末から年始にかけては、消費者の出費が増えるので、良くなると思う。
やや良	家計	観光型ホテル	宿泊予約数が増えている。
	雇用	保険業	ようやく株価が上がってきたと話す人が出てきた。
変わらない	家計	商店街代表者	増税後により縮小傾向となりそうですが、政府の施策であるキャッシュレスポイント還元などの対策や、小規模事業者も何らかの独自のサービスを行っていると思われるので、消費者の懐事情は徐々に緩み、3か月先でもさほど変わらないのではと考えます。
		コンビニエンスストア	キャッシュレスで少し景気が上がると感じる。
		コンビニエンスストア	消費税増税が10月に行われるが、軽減税率等により、すぐ売上げが落ち込むとは考えにくい。
		農産物直売所	賃金が上がっても物価と比例しているから変わらない。
		割烹料理店	時期的に忙しくなると思うが、消費税の増税など良くなる要素がない。
		観光型ホテル	先の予約状況を見ても、変わらないと思う。
		ドライブイン	イベントや年末年始商戦があるが、10月から開始される軽減税率等において資材高騰により、売上げが変わらないと思う。
		ゴルフ場	ゴルフシーズンではあるが、消費税が10%に増税し、どのような影響を受けるか心配される。
		ゴルフ場	何年か先については下落する恐れの方が強いと感じますが、近々3か月～1年程度では現状とさほど変わらないと感じます。
	企業	製造業（化学工業）	当社業績の傾向。
		製造業（鉄鋼業）	今後も現状が続くそうなので、景気回復は難しい。
		製造業（食料品）	10月からの消費税率アップに伴う駆け込み需要があったとしても一時的なものと思われ、景気上昇には結びつかない。
		製造業（ゴム製品）	客先から3か月受注予想を頂いている。
		建設業	建設業界においては、受注簿の状態ではないかと思われます。なかなか好景気という言葉とは、かけ離れているように感じます。
		建設業	消費税10%の駆け込みが少しあると思いますが、あまり景気は良くなるならないと思います。
		金融業	消費税増税や世界情勢・貿易問題により、下振れ要因はあるが3か月では変わらないと思います。
		火力発電所	販売量に変化なし。
	雇用	民間職業紹介業	相対的に求人者が少ない傾向は変わらないので、マッチングが大変厳しい。
		公共職業安定所	退職者数、求人数の動きの大きな変化は見込まれない。
		求人开拓員	消費税増税と最低賃金の引き上げが重なり、プラス・マイナスゼロになるのでは？

やや悪くなっている	家計	スーパー	増税がある。
		スーパー	増税前の駆け込み需要は酒などの一部の商品であると予測されるが、増税される商品全般で10月以降は需要が落ち込む。
		家電販売店	増税の影響が大きいと判断します。
		小売業（菓子類）	消費税増税の影響が出ると思う。
		小売業（薬品店）	増税により、今月のような駆け込み需要がなくなるのでは。
		和食レストラン	消費税増税の影響により、外食産業全体として来店客数の減少が予想されるため。
		洋食食堂	消費税の増税の影響が消費につながってくると思う。
		運転代行	消費税増税の影響で、やや景気は悪くなるような気がします。
		タクシー運転手	将来の景気は今の政権では、段々と悪くなっていると思う。今の政治は国民の事をあまり考えていない。金儲けの政治家が多すぎる。国民の事をもっとよく考えてくれる政治家が現れなくては、景気の見通しは暗い。
		都市型ホテル	集客が少なくなる時期。
		レジャー施設	消費税の増税により、一時的に購入は減ると思われる。
		理・美容店	農家の人が収入があったと思うので、いくらかは良くなっているかとは思いますが。
		クリーニング店	15号の台風の被害で、農作物がだめ（ハウス崩壊）。倒木の伐採費用、瓦の修理など出費が多い。
		住宅販売会社	消費税増税の影響があると思う。
企業	農業関係者	外的要因により、個人消費の落ち込みが心配されるため、昨年より農産物の売上げが伸びるかは、今のところは不透明感があり心配である。	
	製造業（食料品）	菓子は軽減税率8%で変わらないが、他は10%で消費が鈍るのではないかと？菓子にも影響はあります。	
	製造業（電気機械器具）	米中、日韓の状況により悪化の懸念がある。	
	製造業（鉄鋼業）	経営環境の悪化が進むのでは、と感じている。	
	製造業（金属製品）	消費税増税ムードは、全産業に消費力を下げることになる。駆け込み需要の後、消費力は下がると思う。	
	運輸業（道路貨物運送業）	通商問題。	
	運輸業（道路貨物運送業）	直近3か月の推移から、若干のマイナスが予想される。	
	不動産業	大型台風15号の被害で少し景気が悪くなるかも。中には保険に入っていない方が意外と多いかもしれません。農業をしているハウスの方は保険に入りたくても入れないとの事。	
	不動産業	消費税増税、天候変化の異常性等、生活の中で安心・安定感が無くなっているような感じがする。	
	サービス業	弊社では大きな影響は出ていないが、韓国と取引があるお客様は現状が長引くと良い影響はないという話を聞きます。	
雇用	学校就業関係者	賃金を上げてても人材確保が難しいため、企業努力には限界がある。	
悪くなっている	家計	衣料品販売店	生活必需品（食料品、日用品）と違い、洋服や雑貨に関しては増税前に駆け込み需要はなく、増税後にさらに売上げは落ちると思っています。
		農産物直売所	間違いなく、増税のあおりを受ける。
		小売業（食品）	10月の消費税増税で買い控えしているように思われます。
		日本料理店	増税により集客が今よりも見込めないと考えるため、景気は悪くなっていると判断する。
企業	タクシー会社	消費税が増税するため、悪くなっていると判断する。	
雇用	人材派遣業	同一労働同一賃金を見据えて、派遣オーダーが減少すると見込まれる。	

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	日本料理店	消費税10%でメニューコストアップにより、利益率は減少傾向かもしれない。忘年会シーズンにより、今日よりは良くなると思う。
		都市型ホテル	外国からのインバウンドがまた少しずつ増えてきている。
		タクシー運転手	タクシーを待たせて、大量に買い物をするお客様が増えている。
	企業	建設業	3か月先は年末でもあり、年度末の工事が出てきて忙しくなるのはいつものことだが、消費税UPの影響で±0のような気がする。今のところ工事受注も順調であり、年内の工事もほぼ埋まっている。今後もこの傾向は続くと思われ、3か月先は景気はやや良くなると思う。
		建設業	見積りの依頼が多い。また、工事の相談があるため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	スーパー	客数の増減が変わらないと思う。
		スーパー	10月に消費税の増税があるため、その前後は多少の増減があると思われるが、当店は食品メインのため、それほど大きな変動はないと予想している。
		和食食堂	消費増税による外食の節約が考えられる。
		都市型ホテル	出張で宿泊すると以前は当ホテル系列の居酒屋で夕食を取る客が多かったが、出張宿泊代が削られているのか、コンビニで買って部屋でひとりですませる客が多くなったように思う。
		タクシー運転手	初乗り運賃が値上げになるため、乗車人数は多少なりとも減少すると思いますが、売上げは変わらないと思います。
		タクシー運転手	何も変わる要素がない。
		ゴルフ場	消費増税はあるが、お客様の総支払額に大きな変化はない。従って、稼働状況に変化は見い出せない。
		ゴルフ場	消費税が増税し、どうなるかは予想がつかない。ただ、予約状況からは例年並みという数字が見受けられる。
		テーマパーク職員	昨年度の同時期と比べ、この先の予約が現時点での昨年比較だと少し少ない。消費税の増税で利用料金が上がることは少なからず影響してくると思われる。ただ、企業や団体での利用は若干ではあるが増えている。一般の個人利用が少し減り、企業や団体などで利用が増え、全体的に判断するとあまり弊施設で考えると変わらないという判断になる。類似施設やレジャー、アウトドア施設の料金改定が周知されてくると、また景気はやや良くなってくる可能性はある。
		レジャー施設	現時点のお客様の様子からは特に変化を感じない。
		設計事務所	仕事の見込み量を見て、変わらないと判断した。
		住宅販売会社	消費税増税の影響がでるかと思われました。さほど影響はないようなので、今後の3か月も変わらないと思います。

企業	農業関係者	消費税の引き上げがあるが、10月前の駆け込み購入の話も少ない。キャッシュレス化の話題は出ているが、だからと言って内容がどうであるかなどの理解度は少なく、変わる様子がない。
	農業関係者	お客様全般における「買い控え傾向」は依然として変わりはない。
	製造業（食料品）	当社で扱う商品は軽減税率対応品なので、税率変更に伴う買い控えは少ないと考える。贈り物で使う場合もネット注文数がそんなに変わらないので3か月先でも変わらないのではと思う。
	製造業（家具・装備品）	消費税のことあり、期待はできません。他の業者も同じことを言っております。
	製造業（その他）	米中間が少しでも良くなれない限り、変わらないのではないかと思います。
	製造業（窯業・土石製品）	消費税値上げの影響がどれくらい出るかわからないが、良くなる要因は見当たらない。
	製造業（非鉄金属）	業種ごとに景気が異なり、総体的には大きな変化はない。
	製造業（一般機械器具）	変わるような材料がない。
	運輸業（倉庫業）	ドライバーの確保が困難であり、運賃値上げの交渉が進んでいない。
	金融業	今後3か月間の売上げ見通しも、横ばいとの話が多く、現状と変化なく推移するものと思われまます。しかし、消費税増税の影響から長期的には下振れするものと思われまます。
雇用	公共職業安定所	新規求人数（5～7月）は前年同月比で9.5%減少しているが、有効求人数（5～7月平均）は前年同月比0.96%減少とあまり変わらない。
	学校就業関係者	業務上、求人企業の求人状況からの判断になるが、21年4月就職となる、1年生に対しても積極的に工場見学やインターンシップを実施してもらっており、積極的に採用を行う動きがある。
やや悪くなっている	家電販売店	増税後ということで、増税前の駆け込みの反動があると思う。
	スーパー	消費税増税から、やや悪くなっていると判断する。
	家電販売店	増税のため、やや悪くなっていると判断した。
	農産物直売所	消費税増税で10%になります。お客様は考えて品物を購入するため、消費はやや下がると考えます。
	小売業	消費増税前の駆け込み特需も徐々に増える中、増税後は消費が落ち込むことが予測されます。
	洋食食堂	現金で商売を続けていくので、悪くなると思っています。増税後、お客様のカード決済による利用が増えると思われるので、来店が減ると思われます。（ポイント還元がないため）
	都市型ホテル	季節要因ではありませんが、消費税増税で、パッケージ商品などの値上げも見られ増税前に購入することで3か月後は少し悪くなっているかと思えます。ホテル商品としてはあまり増税前で何とかするものではありませんので、それなりの利用となると思え、決して増税がプラスに働くとは思えません。
	タクシー運転手	増税の影響も予測される。会社関係の経費削減が続くと考えられる。（チケット利用の減少）
	サービスエリア	常磐自動車道においては、交通量や入館者数の変動が今後も生じるものと想定され、また、増税の影響で10月以降の個人消費は減少傾向になると思われる。
	ボウリング場	増税による影響が出て、消費が減りそうな感じがする。
	理・美容店	消費税が上がるので、否応なく悪くなると思います。恐らくしばらく悪いんじゃないでしょうか。
	理・美容店	消費税増税などで控えそうな感じがする。
企業	製造業（食料品）	10月から消費税が増税されるので消費は控えると思います。
	製造業（窯業・土石製品）	消費税の影響。
	不動産業	消費税の値上げ。
雇用	人材派遣業	日韓と日中問題で輸出に影響がある。
	求人広告	製造業の企業様数社で、生産見込みが不安定になったとの情報から、やや悪くなっていると判断する。
悪	コンビニエンスストア	増税による買い控え（来店数、購入アイテム、客単価の減）。
	コンビニエンスストア	消費税増税の影響がある。また、その際に景気を回復させられるような政策がない限り、今後はなだらかに景気が悪くなると思われる。
	小売業（生花店）	必要な生活必需品で最低限のものを購入するようになると思う。
	小売業（米穀）	消費税増税で消費が冷え込むと思う。企業間取引、BtoBについてはコストが上昇しても価格転嫁は難しい。
企業	製造業（窯業・土石製品）	消費増税があるので、悪くなっていると判断する。
	製造業（飲料）	消費税増税による買い控え。
	建設業	消費税増税により、悪くなると判断する。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	商店街代表者	軽減税率期間中であり、また、年末にもなるので少しは良くなってもらいたい。
		日本料理店	広告を出したり、各営業所員の姿勢を各自よく考えて、頑張ってもらおうよう本部も努力する。しかし、10月から消費税値上げ等あるのでその対策もある。また、お客さんも少し控えるか疑問である。
		ゴルフ場	例年に比べ、コンペ等の団体予約も多い印象。猛暑の反動もあり、秋の行楽シーズンは期待も含め、良化を予想している。
		レジャー施設	茨城国体関連で恩恵を受ける部分があるため。
		商店街代表者	受注量が微増になると予想されます。
企業	製造業（窯業・土石製品）	11月頃から量産の新規案件が見込まれる。	
	製造業（窯業・土石製品）	知り合いの同業者達は総じて仕事が年々少なくなっているのが現状です。来月からの消費税増税の特需を期待していたのですが、「ハズレ」でしたと多くの方が話しています。当社は8月、9月と熟練工に2人入社していただいたので、何が何でも仕事を取る必要があります。	
	製造業（金属製品）	弊社が長年関わっている移動体基地局の関係で、次世代向け”5G”通信用のアンテナが設備されるので徐々に発注量は増えると考えられる。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	消費税増税により、消費は全体的に冷え込むと思われるが、軽減税率やキャッシュレス還元により、コンビニエンスストアでは中食である弁当類やタバコなどが好調に販売すると考えられます。
		衣料品販売店	売上げの比率でも一般衣料の割合が下がっている。普段の買物にも地元の個人店ではなく、ショッピングモールや大型量販店に流れている。
		農産物直売所	9月末から10月上旬にかけて国体需要は見込めると思うが、それ以外は景気が良くなる要素がない。
		都市型ホテル	特別な要因がない。
		旅行会社	増税後とはいえ、10%にも慣れてくる頃だと思われる。全体的に景気の変動を感じられないので、このまま続くと思われる。
		タクシー運転手	消費増税があっても大して影響はないと思う。
		タクシー会社	変化が見られない。
		タクシー運転手	工業団地が近くにあるのですが、客も近くの駅を利用することが多い。
		ドライブイン	10月1日の軽減税率が導入されることにより消費者（販売者）のなかで、混乱が生じ消費動向が異例な動きがみられると考える。
		ゴルフ場	予約の状況にて。
		建築設計事務所	民間数社が頑張っていてその地域一帯の活性化をリードしているように見えるが、地方行政マン（一部であろうと思うが）は民間の活動に興味がなく他人事で、地元の景気について当事者意識が感じられず、折角の機運を活かしていない。これでは良い方に変わる事が容易でない。
		住宅販売会社	年明けで動きがある様子で、年内は変わらずの景気判断。
		企業	製造業（化学工業）
製造業（金属製品）	長期的な受注の話が今のところない。		
サービス業（コンサルタント業）	消費税の改正がありますが駆け込み需要等もなさそうである。また消費が落ち込むこともなさそうである。		
雇用	人材派遣業	仕事の依頼があまりない。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	消費税が上がり、少しの間買い控えが考えられる。また、天災等（地震、台風など）自然災害に対して備え、貯えが考えられる。
		スーパー	消費税増税の影響が出るように思います。
		コンビニエンスストア	消費税増税や最低賃金上昇により、収益は下がると予測され、現状よりも景気は更に悪くなるものと思われま。
		家電販売店	増税による駆け込み需要もあり、一旦は動きが弱まると考える。その後の年末商戦で再度盛り上がり行ければ良いと思う。
		自動車販売店	消費税増税や新型車がないことから、やや悪くなっていると判断する。
		ホームセンター	前回の増税時と同様、増税後の消費の冷え込みが予測されます。
		食堂	消費税増税の影響。
		ドライブイン	10月の消費増税後の影響がどの程度なのか判断が付かないが、景気対策もあまり効果はなさそうに思える。また、サウジアラビアの油田攻撃の影響による原油高の影響が懸念される。
		理・美容店	日韓関係のこじれなどで企業の受注が減るなどの影響があるようだ。
企業	畜産業関係者	国際情勢から。	
	製造業（電気機械器具）	消費税増税に伴い、消費の落ち込みが懸念されるため、やや悪くなっている。	
	製造業（印刷・同関連業）	値引きでの受注が多くなってきている。	
	製造業（窯業・土石製品）	受注残減少（9、10、11月納品予定分）より、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（電気機械器具）	長期的な変動予測は難しいが、受注変動による人員減の計画策定も検討に入っている。	
	建設業	消費税増税による反動。	
	建設業	工事の受注の遅れもあり、売上げが前年比と比べると悪くなっているため、やや悪くなっている。	
雇用	求人広告	一部の企業で広告予算を控えるなど先の見通しが立たない企業が出てきた。今後は少し不安な材料があるために悪くなるだろうと感じている。	
	公共職業安定所	製造業等で受注の減少がみてとれ、雇用の維持をするための相談などを今年の夏より受けるようになった。	
	学校就業関係者	求人企業は多いが、紹介できる生徒が少なく、人手不足が続くと思われる。また、新卒者の基本給は、昨年とあまり変わらない。	
	求人開拓員	米中の貿易問題、及び最近の原油高の影響が及んでくるのではないかと。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	消費税増税が影響してくると思われる。
		製茶販売	景気が良くなるようなことがこの先あると思えない。消費税も上がるし、買い物はますます少なくなることだろう。
		レストラン	消費税が8%から10%に増税されるので、客足は鈍る。
		旅行代理店	消費税が増税して、税率が10%になります。生活必需品も学生のノートも全てにかかる消費税が上がります。軽減税率で8%のままのものもあるが、ほとんどが高くなります。我々庶民の立場を考えた政治を望みます。
		パチンコ店	季節的に客数が減るタイミング。
		クリーニング店	消費税10%になるので、落ち込むと思います。
雇用	金融業	増税の反動から消費の落ち込みが考えられる。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	老舗小売店や老舗飲食店の閉店が続いている。飲食店は新規出店もあるが、チェーン系でない小規模小売店の新規出店はほぼない。コンビニエンスストアだけが増えていく。
	スーパー	車を購入する人がいると聞いた。(増税前需要)
	スーパー	安い商品がよく売れます。
	スーパー	価格よりも商品の情報発信によって、消費者は動いていると考えます。食品に限らず、商品の良さが明確に伝わると効果あります。チラシも価格割引セールでは動かないと思います。
	コンビニエンスストア	客数が減っている一方で、客単価は上がっているの、価格ばかりを気にして消費を決定している訳ではない傾向が見てとれます。
	小売業(水産物)	3か月先の状況について、外食控えに伴う小売業の売上げ増を予想してはいるが、節約して食材の購入も控えるようになると、売上げ低下も考えられるので不安である。
	小売業(時計)	高額品が動かない。
	レストラン	10月からの消費税10%に対して商売している人達は、材料費も上がるので値上げを考えている。このため、客足が低下し、慣れるまで景気上昇なし。より不景気の波あり。
	ラーメン店	一人一人がバラバラな動きをするので、これでいいのか悪いのか分からないです。
	スナック	引き続き、エコカーを購入する人が多い。
	ラーメン店	人口減もあるだろうが、車の交通量が少なく感じられる。
	食堂	いつも思うことなのですが、スーパーに行くといつもの通り、上下の差はあります。高価な物ばかり買う人、ひっそりと毎日を送っている人、頑張っているんだなと思います。子供が泣いても親はすいすい行って、頼もしい頑張っている姿に心が安らぐ。娘から外国の菓子や、地方の菓子などを送られてくると毎日のようにバッグに入れて、子供達に分けて楽しんでいます。
	観光型ホテル	本年春より、QRコード決済を導入したが、月の利用は数件と利用が低迷している。導入コストすら回収できていない状態であり、マスコミが騒ぐほど、QRコード決済は普及していないと痛感している。
	タクシー運転手	タクシー業界では、キャッシュレス化でクレジットカードからネット決済(PayPay)の割引制の導入が急速に進行している。
	タクシー運転手	仕事が少なくなっている。
	ドライブイン	消費税増税に関して、5%→8%よりも8%→10%は、軽減税率などから、あまり買いだめ意欲を刺激されない。(前回と比較して)
	レジャー施設	前回の消費税増税の際は、比較的高額な物品を前倒しで購入する状況が見受けられましたが、今回の改正ではそれが少ないように感じます。税率が改正されても、前回よりは買い控えも少ないのではないかと想定しております。(軽減税率の導入もあるせいか、今回の増税は納得している者が多いと感じますので、景気はやや上向きかとも思います。)
	ゴルフ場	茨城国体の賑わいに期待。消費税10%の動向を注視。
	ゴルフ場	一回ごとの利用金額が減ってきている。
	写真店	空地にアパートが建設されている。マンション、アパートが非常に目につく。
写真店	私たちの業種はこれから益々厳しい状況で廃業する店も多くある。	
企業	林業関係者	都心部では景気は上昇しているのだろうが、地方まで降りてきてほしい。茨城国体に期待したい。
	製造業(食料品)	資材原価高騰要請(4%前後)が相次ぐ。働き方改革に伴う資材メーカーのコスト増に加え、今後は石油価格も懸念。
	製造業(電気機械器具)	職種による仕事量の違いがある。高齢化に伴う将来について、特に政府のビジョンが見えない。年金も同様で、政府のやり方は汚い。
	製造業(電気機械器具)	景気が悪くなる兆しが出ているが、人材の確保はとても困難な状況である。新卒、中途どちらにも言えることであるが、特に新卒は大卒が厳しい。
	製造業(食料品)	スーパーで、お客様のカゴの買上げ点数が少ないような気がする。
	製造業(化学工業)	インバウンド効果が予想を下回っている。
	製造業(一般機械器具)	周囲の事業所からは特に特徴的な動きは見られない。
	製造業(輸送用機械器具)	ワーカーの人手不足は依然として継続しており、その影響は中小企業に大きく出ている。中小企業景気対策支援内容に省人化・自動化を目的とした人員対策の認可制度も必要ではないかと考える。また、技能研修制度においても活用拡大が進められる内容の見直し検討が不可欠と感じる。
	製造業(精密機器)	珍しく何もありません。悪くなるのか、良くなるのか不明です。
	金融業	3か月前と比較し、大きな動きはない状況。増税前の駆け込み需要も、影響は少ないとの声が多い。
	不動産業	一部の地元企業では事務所や工場移転、拡張の話がある。堅実に業績を上げている企業はあると思われる。個人的な感覚だが、国体や県の(面白い)施策など、明るい話題もあると思う。
情報通信業(情報サービス業)	依然として採用関係は厳しい。定年後の再雇用者の活躍の場が増えている。	
雇用	公共職業安定所	窓口を利用する事業所から「米中関係、日韓関係がこのまま続くと厳しい」との話聞く機会が増えている。
	求人开拓員	自身の年齢からして、人生最後の車の購入をした。ディーラーに行ったり来たりしていると、店内はいつも混雑していて、何か景気は良いのかと思ったりもした。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	今秋開催の、いばらき国体・障害者スポーツ大会に関連する需要があります。
	商店街代表者	10月1日から消費税が増税するので駆け込み需要があるのかと思っていたが、今のところほとんどなかった。消費者の購入方法が変わってきた。個人は商店街に来なくなり、各店に来店することが少なくなった。事業所も、以前は来店して品定めや商品選びをして購入していたが、今では商品問合せが電話かFAX、メールであり、参考見積りが2、3度あり再び同じ内容で本見積り（競争見積り）になり、納期を決め価格を決め、低価格で決定される。数万円以上の物ならそのような方法の購入でも仕方ないが、1個や数百円の商品（コンビニで言えばおにぎり2、3個ほどの購入）に見積り合わせを3度くらい行っているのは、その担当者の人件費を考えたら大変無駄なように思われる。そのような購入方法が本店では毎日、毎日行われている。
	百貨店	増税前駆け込みは、前回増税時ほどは無い。
	百貨店	高額商品、消耗品の動きが良い。増税前の買い物と思われる。
	スーパー	消費税の増税前の駆け込み的な衝動買いがない。
	スーパー	増税前の増税する商品の動向は良いと思われず。
	スーパー	政府の発表により年金だけでは足りないことが判りました。実際にできるかどうかは別として、家族一人あたり2000万円貯まるまではケチケチ節約モードが続くと思います。
	コンビニエンスストア	幼児養育費無償化の恩恵は、今後の消費を促進させると感じます。
	小売業	給与は上がり、派遣社員の方々が成田支店だけで6名、同時に契約終了してしまった。早急に新しい人材を採用しないと、人手不足になるのは必須。一方で海外からの旅行客は今後も増えて来年のオリンピック、パラリンピック終了までは増税効果は見込めるかもしれない。その後は厳しい状況になるのではないかと思う。「税金」は、「国民からお預かりするお金」という意識がないといつまでたっても国民の負担は増え続けると思う。マイナンバーとは何だったのか。マイナンバーカードにポイントを付けるとか、考えた人の給与も税金。無駄な仕事は税金の無駄遣いなのですぐに止めてほしい。
	農産物直売所	以前の消費税増税と違い、高額商品を前倒しで買ったという話を周りで聞かない。
	レストラン	消費税増税の影響を各店心配している。
	都市型ホテル	国体等、全国大会でのさまざまな利用があることに期待している。
	観光型ホテル	本年は「いばらき国体」があるので9月、10月の比較はしにくい。
	タクシー会社	県外よりのお客様ご利用が増加している。特に県内観光客が増えている。
	ゴルフ場	ここにきて、消費税増税に伴う大手小売販売の値下げ攻勢が目立っている。一般小売店の減少に増々拍車がかかる予感がする。
	ペット美容室	「国が消費税について決めるのなら、レジスター交換は国がすべきです。」「商品の貼り替えも公務員がすべきです。」と、先日仲間で話していました。
	建築設計事務所	「暮れにかけて、仕事が薄くなる。」との声が多く聞こえる。
	住宅販売会社	消費税増税がある。
	企業	製造業(食料品)
製造業(食料品)		国体に絡んで需要があるので期待したい。
製造業(印刷・同関連業)		この時期、増税の話題が出ており、今後どのような影響が出るのか懸念される。
製造業(一般機械器具)		国体や消費税と、話はあるが良く見えない。
製造業(精密機械器具)		4月から弊社取引先の海外部門へ1名を実習生として勤務させています。まだ期間は短いながら、数か国からオファーと、具体的な引き合いもあり、今後期待出来そうです。
建設業		不思議に消費税の変更を見据えた兆しが見られない。
運輸業(道路貨物運送業)		千葉県を襲った台風15号の被害の影響が長引くことを危惧している。
金融業		水戸市内においては、大型商業施設に消費者が流れ、依然として地元商店街は苦戦を強いられている状況であることから、中心部への集客向上を図るべく街中を中心とした各種イベント等を行い地域活性化を行っている。
雇用	不動産業	不動産賃貸では、数年前より平均契約単価が下がっているように感じる。共同住宅の空室が多い事で、同業他社と価格競争となっている傾向がある。そのため低予算で物件探しにくるお客様が多い。
	サービス業(広告業)	消費マインドの下落が尋常でない。消費税増税は最悪だ。
雇用	公共職業安定所	・働き方改革の取組み状況で、最近1年間に取り組んだ「働き方改革」がある事業所は207事業所、今後取り組む予定の「働き方改革」がある事業所は135事業所あった。 ・今年6月は100人以上の求人を提出した事業所は4事業所であるが、昨年同月では、7事業所あった。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	10月からの低所得者・子育て世帯向けのプレミアム付き商品券と、子育て応援券支給事業に伴い、加盟店並びに協賛店の募集を開始しております。これにより市内登録事業者への売上げ貢献と、消費者への消費喚起を促す効果を期待しているところでもあります。
	スーパー	増税後のキャッシュレス決済の5%還元についての消費者からの問合せが増加している。このほか、サンマの極端な不漁で水産部門の売上げが落ち込んでいる。
	衣料品販売店	メーカーや同業者などまわりでは景気のいい話は聞きません。
	家電販売店	今期は、増税による一時的な景気向上しか見受けられません。
	農産物直売所	増税前の駆け込み需要が、思ったほどあがっていないように思う。当店は、ほぼ軽減税率対象商品なので、駆け込みはないが、他店などリサーチや、買い物時にチェックしても、以前と比べてみても盛り上がっているように思えない。
	農産物直売所	最低賃金改定や軽減税率制度の対応で忙しい。
	小売業（食品）	先日、北浦加工組合の集まりで意見を聞いたところ、あまり良い答えがなかった。
	小売業	神栖市であるが、9月に大手ビジネスホテルが1か所新規開業。また、他にも建設中の大きなビジネスもあり、数年前から宿泊施設がどんどん増えている。鹿島臨海工業地帯の企業のおかげだろうか。
	和食レストラン	消費税増税前の駆け込み需要取り込みを目的に、各種営業の勧誘が増えている。
	洋食食堂	昨年から今年と、旧市街地で長く営業をされていた個人営業のお店が閉店している。当町の顔として代々続いてきたお店です。残念でなりません。他人事ではなく、真剣に仕事に取り組もうと思っています。
	割烹料理店	卸売市場でも、テナントから魚屋が撤退して空いてしまっている。状況は良くないと思う。
	日本料理店	近隣の企業で事故があったりすると自粛ムードになり、街の活気がなくなる傾向がある。
	海鮮料理店	今年の夏は今までと比べられないくらい景気が悪かった。休みが多すぎ、逆にお金を使わない。また、お客様が何が起きるか分からないのでお金は使えないと口々に言ってます。
	タクシー運転手	政権がどうこう言っても仕方ないが、現状でどうすべきか、もう少し給料があれば景気がよくなるかもしれない。歩合制のため、変動が激しい。もっと安定した給料であれば、仕事にも意欲が出るし、若い人でも意欲が出るはず。
	ゴルフ場	10月より消費税が10%に増税され、プレー料金が値上げとなっている。今後どのような影響を受けるかが心配される。予約推移が悪い状況であれば単価を下げってしまう恐れもある。
理・美容店	安い理容店が増えている。若い人はお小遣いがないらしいです。お年寄りも年金生活で、頭は短くなっていけばいいので千円カットに行くんだと言っているという話も聞きます。	
クリーニング店	異常気象や台風が大型化しているために、思わぬ修繕費、工事費の出費に悩まされている。	
企業	農業関係者	最近では、プレミアム等の高級感の名称を付けると、消費者の方々は、特別感や限定的要素が高まり、購買意欲が増し売上げに貢献するように思われる。
	製造業（食料品）	必要であれば購入をする。決して無駄遣いはしない。まだ消費に余裕はない。
	製造業（食料品）	東南アジア産鯖缶の大量流入により、原価割れの処分価格品が示現して、国産品が価格低下傾向となり、今後の新漁に向かって魚価形成に影響してくるものと思われる。
	製造業（金属製品）	高額商品などの前倒しはあるものの、一般的な購買力ないように思える。消費増税に対し、国民は反応が低くなっている。
	建設業	相変わらずの労働力不足解決には、なかなか道半ばであると感じます。
	建設業	鹿行地方は別荘が多いために中古住宅がリフォーム付で販売されている。かなりの棟数です。
	金融業	国体の開催があり、地域の整備が進んでいる。
	保険業	米価が前年より高い値段で取引されている。台風15号で屋根瓦の損害が出ている。
	不動産業	10月より消費税が8%から10%に増税されます。台所リフォームのため電化製品、大型冷蔵庫、4K大型テレビ2台、9月発注致しました。
不動産業	当社で扱っている中古住宅の販売価格帯が1000万円以下、500万円以下、300万円以下、200万円以下とすれば200万円以下が増えている。また、1000万円以上は大変に細いです。	
サービス業	消費税増税に関して、以前の増税時と比較して内容が複雑なこともあり、現在進行中の事案に対する消費税の取り扱いについての問合せが増えたが、駆け込み発注等の動きはない。	
雇用	人材派遣業	米中の経済摩擦により日本製鉄鹿島製鉄所の動向いかんによって地域経済が大きく変動しそうである。
	民間職業紹介業	やはり現在は、技能実習生や特定技能などの在留資格での外国人の雇用を検討している企業が多くなってきた。
	学校就業関係者	求人は売り手市場で、企業からのオファーが多い。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	スーパー	外国の労働者（客数）が増えている。
	農産物直売所	以前は年金受給日以降近日は、受給者が大量に品物を購入したが、現在は受給者の購入額が減っている。
	小売業	インテリア、家具、家電製品、時計等の高額商品や化粧品等の身の回り商品など、消費増税前の駆け込み需要が多く見受けられます。
	小売業（生花店）	土浦駅すぐ近くにマンションが建ち始めており、つくばに比べ地価・物価が安いので動きが出ているようだ。ビジネスホテルの新築等もあり、ホテル稼働率も高止まりしていると工事関係者から聞いた。
	小売業（米穀）	いよいよ来月から、消費税が増税されます。キャッシュレスで買うとポイントつける等、ますますキャッシュレスが進むと思われますが軽減税率がややこしいです。運賃は10%なのが重いです。
	和食食堂	お盆過ぎは暇です。
	和食食堂	物販に限らず、サービス業、レジャー業においても値上げ傾向。
	洋食食堂	ファミリーレストラン、回転寿司屋、国道をPM7:00~8:00くらいを走って見ると、客数がまばらですね。廃業している飲食店もあり、建物がそのまま残されています。名前を変えてオープンしたりしていた時代もありましたが、今は難しいのかもしれない。
	寿司店	息子が結婚しました。今後に期待したいと思います。
	都市型ホテル	税金・サービス料込みの「パッケージ商品」の商品や特典内容を変えて、見直しせざるを得ない状況です。その増税にかかるシステム・パンフレットを変更する経費が、中小企業として大変であると話を聞きました。ホテルも軽減税率として、デリバリー商品、おせちなどありますが、包材の購入は10%であるため上げざるを得ない。このようなことを近隣ホテルが話しておりました。
	都市型ホテル	マンションや戸建て等のチラシが、数多くポストに入れられております。優遇などもありますが、景気が良くなっている傾向ではないかと感じます。
	都市型ホテル	若い人でも燃費の良いエコカーや軽自動車に乗る人が多くなっている。ガソリン代の節約や税金が安いからだろう。10月から消費税が上がるので、今後一層このような傾向になると思う。
	タクシー運転手	コンビニのコーヒーメーカーが空いていて、利用しやすくなっていると感じる。
	タクシー運転手	つくば地区にて大規模住宅造成地があり、家も建ち始めている。その顧客からの迎車依頼もあり、今後の入居に期待したい。
	サービスエリア	パート・アルバイトの募集をするも、応募が少なく困っている。
	ゴルフ場	消費税増税と軽減税率の適用について、お客様から質問があった。飲食品の取扱いに注意を要する。
ゴルフ場	台風15号の直撃を受け、近隣や近県で電気・ガス・水道が止まり、コンビニに何も無い状態が1週間弱続いている。食べ物、飲み物があればすぐ売ってしまうという状態だ。早い者勝ちとなってしまうのは仕方ないが、何か良い方法はないものだろうか。	
テーマパーク職員	同系列の施設では料金改定を行うことで、ファミリーでの利用が少し減ってしまう可能性が懸念される。実際に10月前にコースの変更に合わせ料金形態を変えた施設では少し利用率が下がっている。数百円単位でもファミリーなどで来場の消費者にとっては、大きな影響となっている可能性がある。20~30代の大人のみの利用者が増えていることもその要因があるのではないかと。今年の40~50代のファミリーを持つ世代の方々が景気が良いとは言えないような雰囲気を感じる。	
理・美容店	最近PayPayを導入したのですが、段々使う方が増えてきた感じがします。キャッシュレスは景気には良いかもしれませんがね。お金を使った感じがしないのでしょうか。	
企業	農業関係者	料理が出来ずコンビニ利用が多くなっているとの会話を多く聞く。女性も貴重な働き手となっている。
	製造業（食料品）	つくば駅前のショッピングモールのテナントの入れ替わりが多い。また、テナントが抜けた後に次のテナントが入るまでの時間が長い感じがする。つくば駅付近にあるホテルの2階を一部コワーキングスペースにしたが、使っている感じがしない。
	製造業（窯業・土石製品）	職種を問わず、中小個人経営では良い話は聞かない。
	建設業	材料関係が、大きく動かないとぼやいています。
	建設業	台風15号は千葉県に大きな被害をもたらしたが、この辺もそれなりに被害があった。建設業関係では瓦屋、板金屋、大工などは大忙しとなった。近所の工務店では、50件近く修繕依頼が来ていて、1か月待ちだそうだ。これも景気が良くなる要因となるのだろうか。
	運輸業（倉庫業）	増税前の駆け込み需要があまり見受けられない。
金融業	建売住宅販売において、つくば市内は金額も高額であるため、常磐線ひたち野うしく駅周辺の建売販売が盛んでありましたが、物件も少なくなり、最近土浦市荒川沖（ひたち野うしく駅の北東側）周辺の住宅販売が増加している。	

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	個人商店にはほとんど来店客が来ない。
	商店街代表者	お客様の話題は何と言っても消費税。小さな洋品店はカード使用もしていないし、閉店すると決心したとの事。
	スーパー	スマホ決済を対応したところ、考えていた以上にお客様のご利用が多い。
	農産物直売所	軽減税率は景気が回復する対策として有効なのか疑問である。確かに、システム変更やレジ入替で関係業者は一時有効（需要）があがったが、一般消費者に有効ではないと思う。
	メガネ・時計販売店	前回の消費税増税時のような、駆け込み購入がほとんど感じられない。
	ホームセンター	前回の消費税増税前の駆け込み需要の勢いは感じられない。
	製茶販売	お年寄りが買い物に行く回数は前と変わらないが、買うものが少なくなっている。
	日本料理店	品物も安い物を買う若人が多く、また業者もそれに答えている売り方をしているようです。飲み物を控えている。時給も上げるようになり、働き方も変わり店員さんも不足になり大変です。売上げを上げるよう、頑張るほかないと思います。
	旅行代理店	大家さまから家賃の値上げ要求がありましたが、隣家などに聞いた結果、築20～25年で値上げはないだろうと言う事と、地価が値上げされたなら考えなければならぬだろうけれども断りました。大家さまも家計が厳しいだろうけど、現状通りでお願いしたい。燃料費も上がったままで、横ばいである。修理が増えて大変です。ドライバーが集まらない。
	タクシー運転手	最近すぐ近くの所にボーリング場ができたが、日曜・祝日は入っているが平日はほとんどいないとのことです。期待がもてないとの事です。飲食店も閉店する店が多いです。
	ドライブイン	軽減税率に対する情報が錯綜している傾向があり、混乱している。
	ゴルフ場	通勤において車の量は増えてきている。トラック、ダンプも多く景気自体上向き傾向に感じる。
	レジャー施設	増税前で、生活用品等は駆け込み需要を狙ったセールをしているので、9月単月は景気は良くなると思われる。
	理・美容店	なんとなく購買意欲が感じられない。
商店街代表者	必要なものには消費を惜しまないが、余分なものには財布の紐は相変わらず堅いままです。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	建設業関係については建物修繕等をお願いしても工期が2か月先からになり、受注案件に対し工員不足に悩まされているように見受けられます。
	製造業（窯業・土石製品）	先日、業者向けの食材卸をしている会社を訪問してお話を伺ったら、他の同業者は廃業して、茨城では同じような形態を生業としている会社は5社だけとか。そしてその中で後継者がいるのは当社だけとか言っていました。何業でも中小零細業を取り巻く状況は厳しいのだと再認識をし、「皆さん私と同じ思いなのだ」と逆に「ヤル気」が出て、帰路につきました。
	製造業（金属製品）	弊社における防衛用救命装備関連は、国の新型戦闘機購入に予算を取られ、かなりの受注減となっている。
	建設業	どの職業も職人の数が少ないので、工事の進みが厳しい状況である。
	金融業	国体開催に伴い、景気にプラスの効果が一部に見られる。
	不動産業	前回の消費税増税時に比べ、今回は落ち着いている。駆け込み需要もそれほど見られない。
雇用	求人広告	今後の景気に対して警戒をしている企業や個人が多いように感じる。増税のネガティブ要因で、買い控えを防ぐために動いている事を目にする機会が増えた。
	学校就業関係者	物価が上昇し、増税もあるのに給与は変わらない。老後の年金も、当てにならない、家計は苦しくなる一方である。